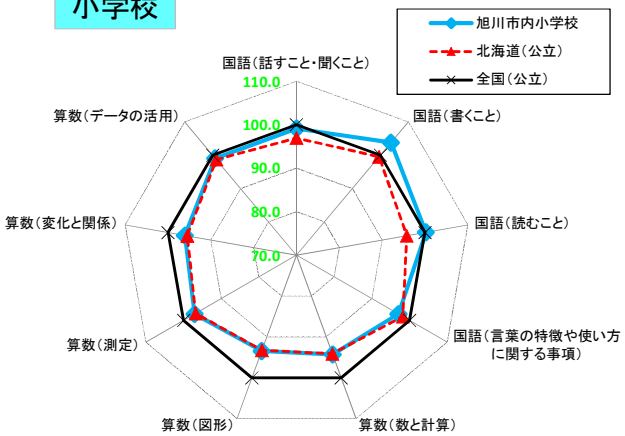
■旭川市内の状況及び学力向上策　（小学校数:50校 、児童数:2237人）（中学校数:25校 、生徒数:2316人）

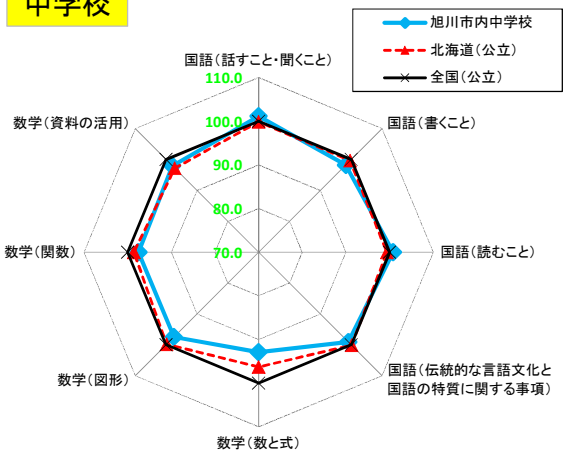
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

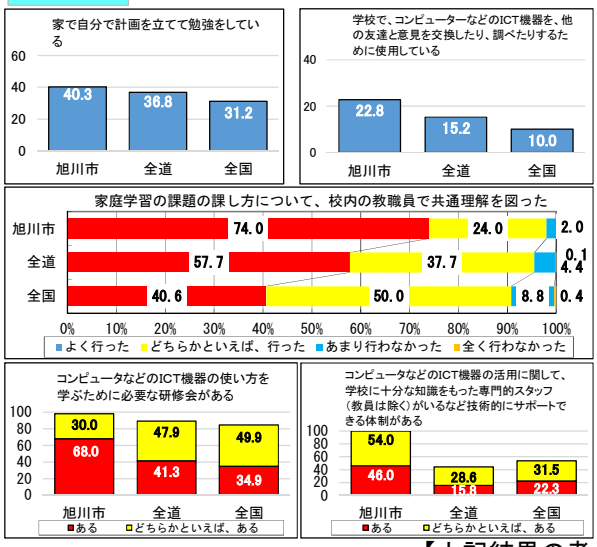


中学校

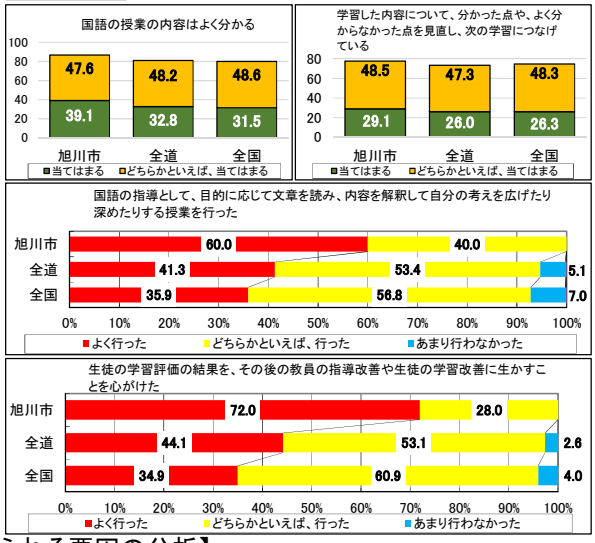


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
市内の各学校において、効果的な家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図ったことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。	市内の各学校において、国語の指導として、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、生徒は国語の学習の内容がよく分かるようになり、国語科（読むこと）の平均正答率が、全国を上回ったと考えられる。
市全体で、コンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修会を開催したり、十分な知識をもった授業改善推進チームが各学校を巡回したりするなど、技術的にサポートできる体制を構築したことにより、コンピューターなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用していると回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。	市内の各学校において、生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしたことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

【旭川市の学力向上策】

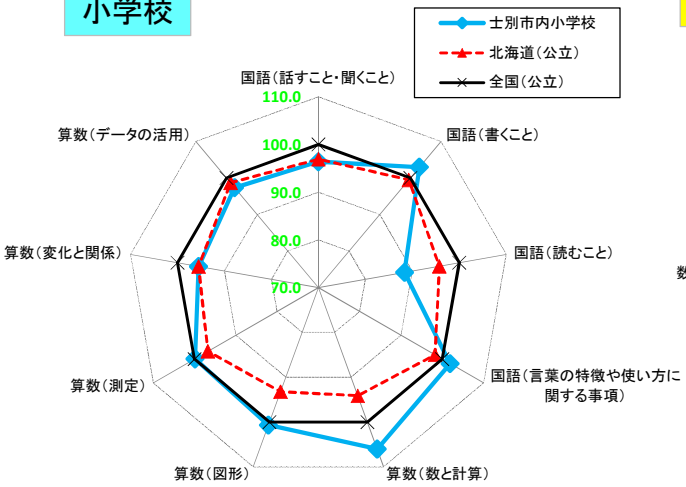
- ◎　確かな学力の育成を図る3つの柱である「学びを深める授業づくり」「落ち着いた学級づくり」「望ましい学習習慣づくり」に基づく取組の推進
- ◎　「確かな学力育成プラン」を踏まえた、各学校における「学力向上ロードマップ」の作成
- ◎　国語、算数・数学等を担当している教員と市教委指導主事とで構成した授業力向上プロジェクトチームによる全国学力・学習状況調査結果の分析を踏まえた「旭川版　指導の改善策」の作成と各学校・各種研修会等での活用
- ◎　「授業改善推進チーム」の推進教員による配置校及び連携校の教員への授業改善に向けた継続的な指導の実施
- ◎　「旭川市小中連携・一貫教育推進プラン」に基づく小中連携・一貫教育の推進
- ◎　全小・中学校で導入しているオンライン教材を活用した、個に応じた指導の充実

■士別市内の状況及び学力向上策　（小学校数：6校 、児童数：120人）　（中学校数：4校 、生徒数：117人）

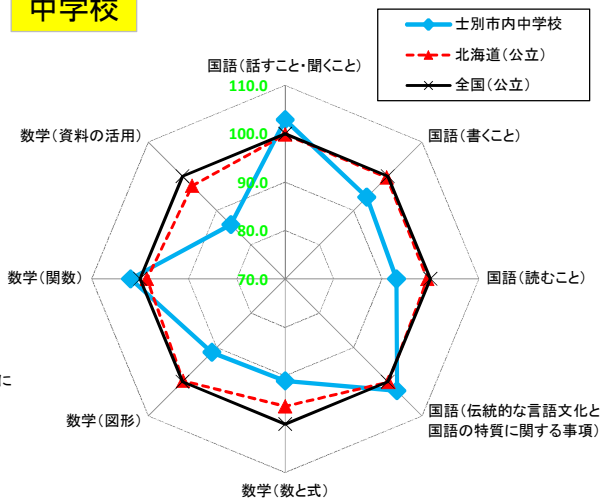
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

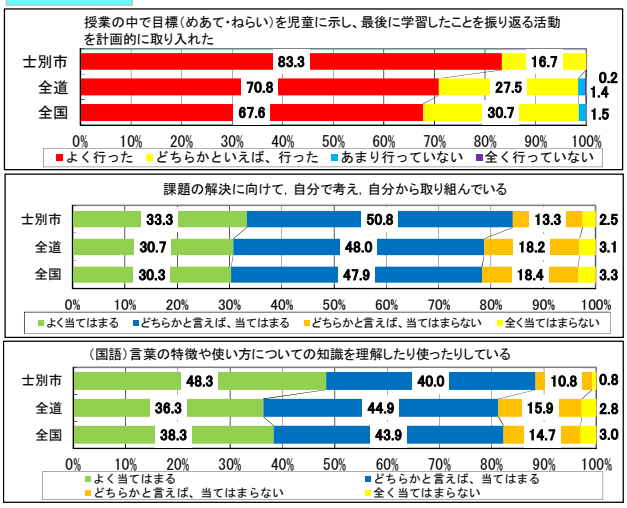


中学校

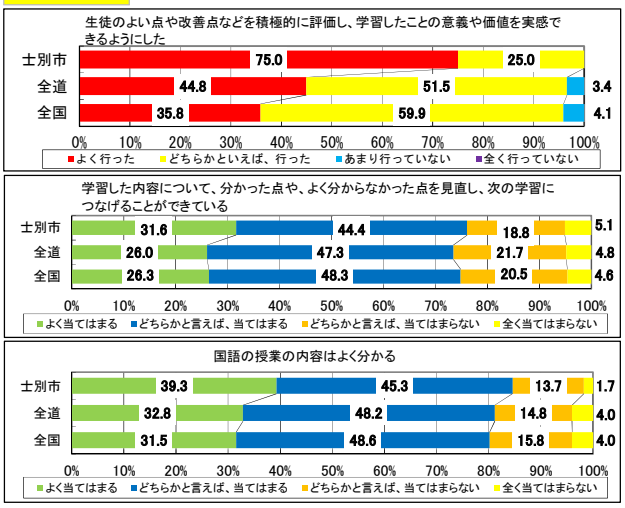


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
市内の各学校において、授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	市内の各学校において、生徒のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。
市内の各学校において、国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、言葉の特徴や使い方に関する事項の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。	市内の各学校において、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行うとともに、国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【士別市の学力向上策】

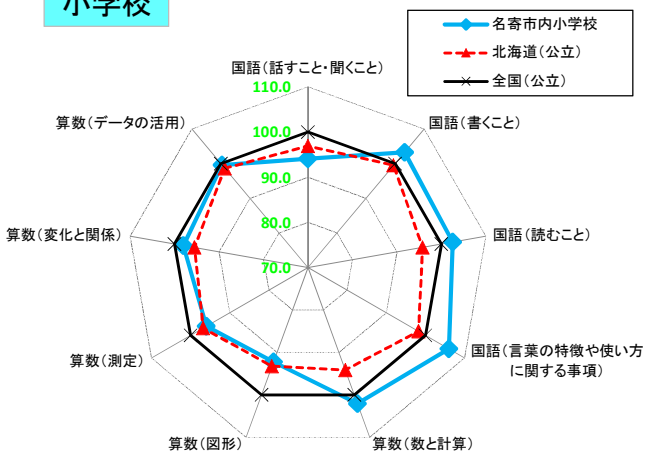
◎　学習のスタート（めあて・ねらい）とゴール（習得・活用）を明確にした一単位時間や単元構成による授業実践
◎　1人1台端末を効果的に活用した習熟度別の学習や学習課題（難易度）の個別化
◎　「チャレンジ寺子屋」（社会教育課）とリンクした長期休業中における発展的・補充的な学習課題の取組

■名寄市内の状況及び学力向上策　（小学校数：7校 、児童数：173人）（中学校数：4校 、生徒数：199人）

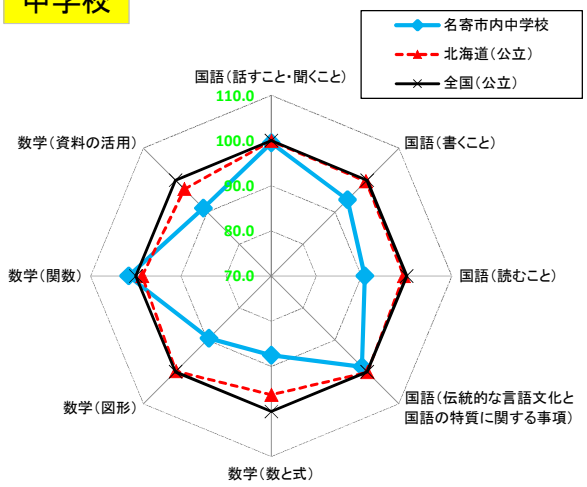
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

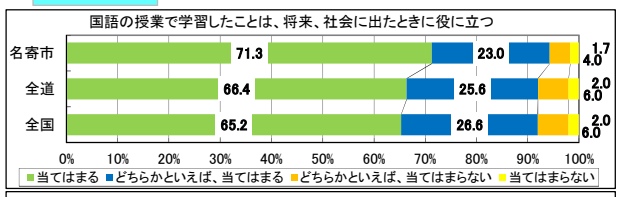


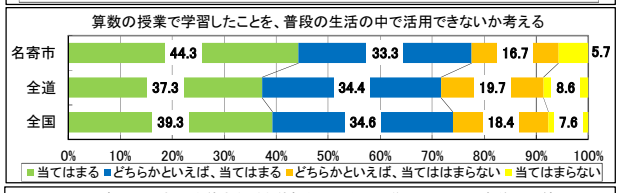
中学校

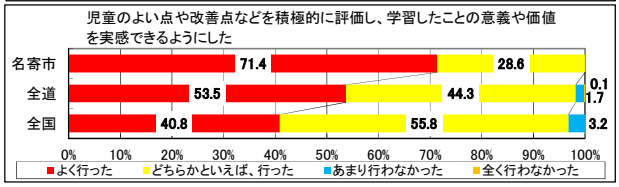


【質問紙の状況】

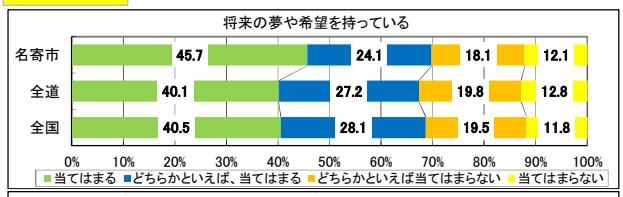
小学校

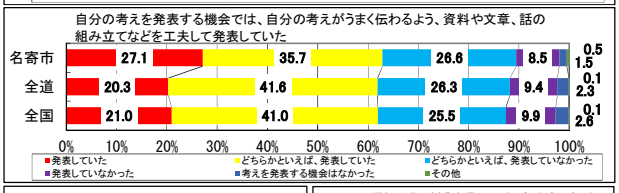


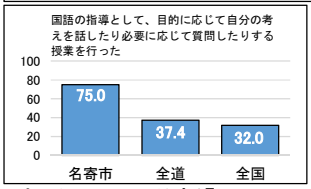


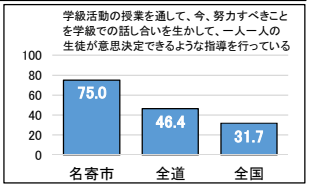


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
市内の各学校において、児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、個に応じた指導の充実を図ったことにより、国語のほとんどの領域・事項で全国を上回り、算数の多くの領域で全道を上回ったと考えられる。	市内の各学校において、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行ったことにより、将来の夢や希望を持っている生徒が、全国を上回ったと考えられる。
市内の各学校において、各教科等で学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと考えたり、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えたりする児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。	市内の各学校において、国語の指導として、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

【名寄市の学力向上策】

◎　名寄市教育改善プロジェクト委員会による、市内小・中学校が一体となった学習規律の確立と学力向上の取組の推進

◎　名寄市教育改善プロジェクト委員会と市の名寄市学校教育情報化推進委員会が一体となったICTの効果的な活用等に係る研修会の推進

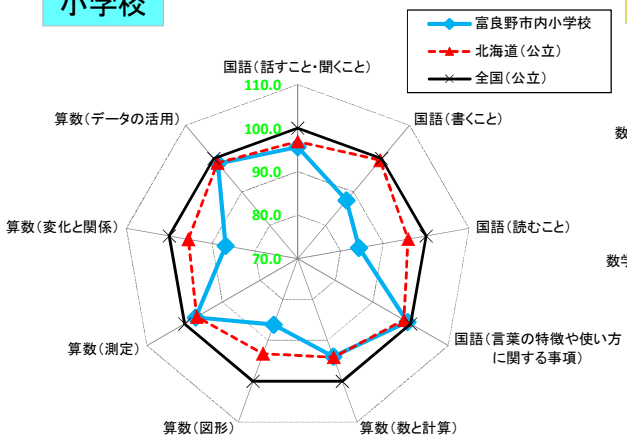
◎　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、授業改善及び書く活動を重視した取組の充実

■富良野市内の状況及び学力向上策　（小学校数：9校 、児童数：129人）（中学校数：4校 、生徒数：145人）

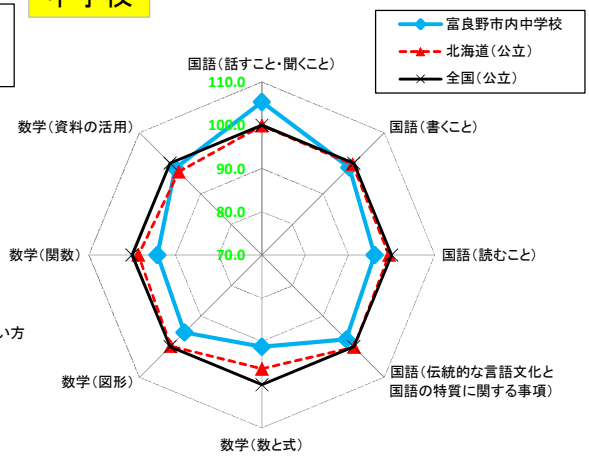
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

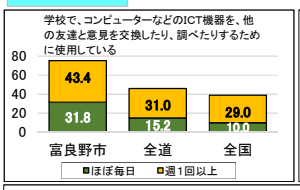


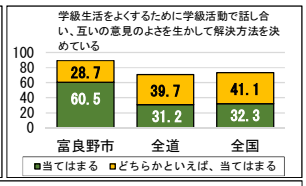
中学校

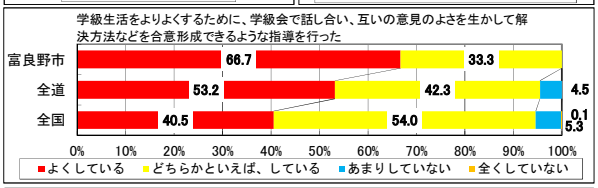


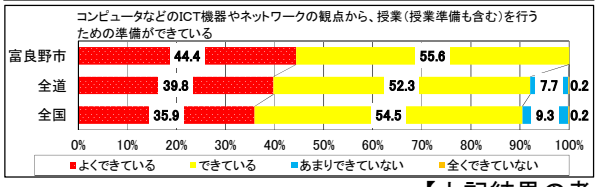
【質問紙の状況】

小学校

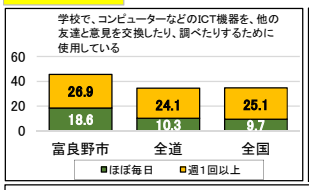


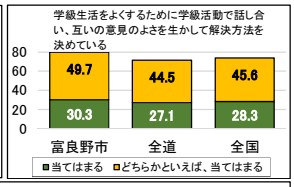


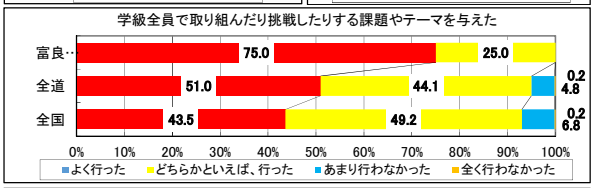


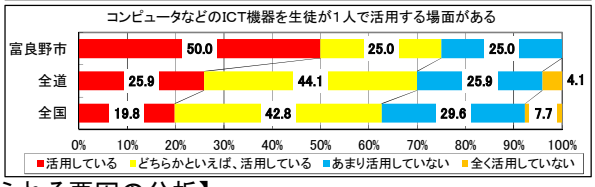


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
市内の各学校において、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行ったことにより、友達と協力しながら、学級生活をよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると考える児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。	市内の各学校において、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたことにより、学級生活をよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると考える生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。
市内の各学校において、コンピュータなどのICT機器やネットワークの観点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備を十分に整え、市全体で教職員対象の研修等を行ったことにより、学校で、コンピューターなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。	市全体で、教職員対象の研修等を行い、市内の各学校において、コンピュータなどのICT機器を生徒が1人で活用する場面を設定したことにより、学校で、コンピューターなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

【富良野市の学力向上策】

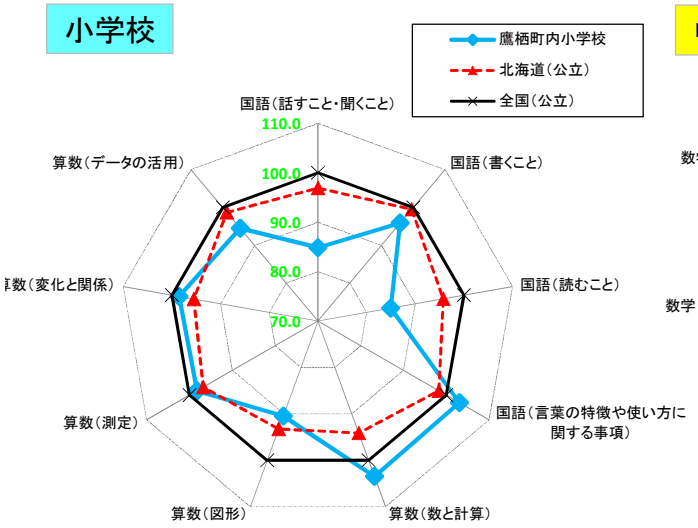
- ◎ 「富良野市教育振興基本計画」に基づく市内小・中学校、教育委員会が一体となった学力向上の取組の推進
- ◎ 「富良野市学力向上推進プロジェクト」による分析結果・授業改善の方策等を掲載した調査結果概要の作成及び児童生徒の学習状況の改善、家庭や地域の教育力向上に向けたリーフレットの作成
- ◎ 全国学力・学習状況調査の調査結果の分析を踏まえた学校改善プランに基づく望ましい生活習慣や学習習慣の形成、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善の推進
- ◎ 富良野市ICT推進委員会による実践交流及び学習支援ソフト「ミライシード」を活用した1人1台端末の効果的な授業づくりの推進、市主催による教職員研修「学習用タブレット活用セミナー」の実施
- ◎ 全小・中学校に導入したコミュニティ・スクールによる地域と連携した学校運営と「地域学校協働活動」による地域全体で子供たちを育てる体制整備の推進

■鷹栖町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：49人）（中学校数：1校 、生徒数：67人）

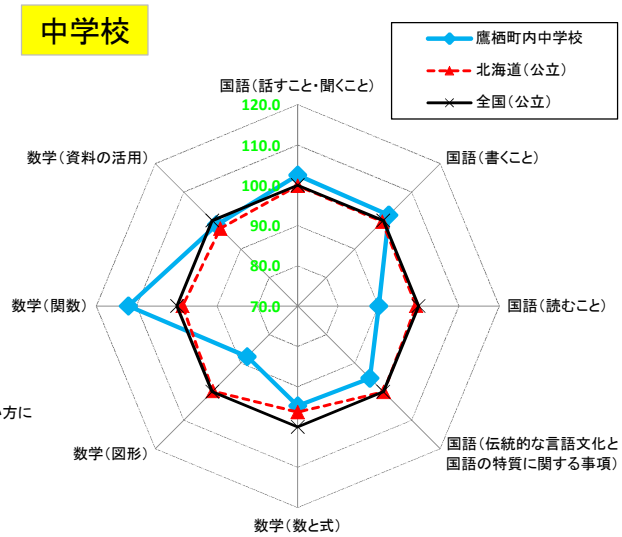
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

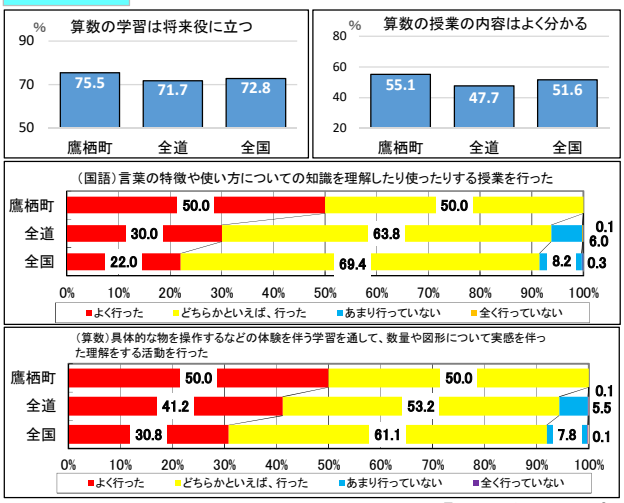


中学校

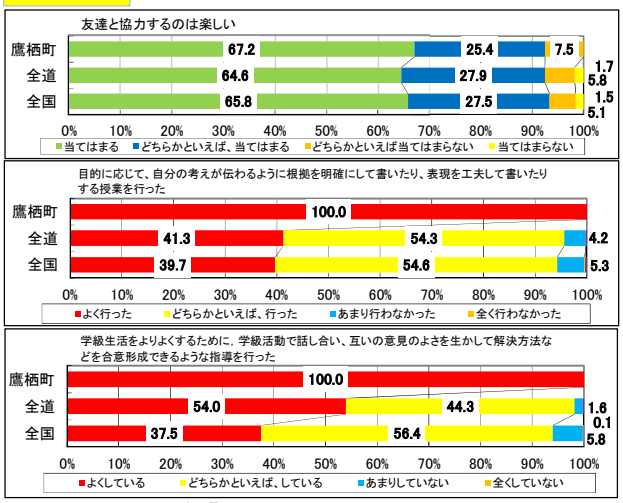


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の学習において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解することで、語彙が豊かになり、言葉の特徴や使い方に関する事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語の学習において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、文章を推敲したり、文章の構成の工夫について考えたりする力が身に付き、「書くこと」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
算数の学習において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容がよく分かるとともに、算数の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと感じる児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行ったことにより、友達と協力するのは楽しいと思う生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【鷹栖町の学力向上策】

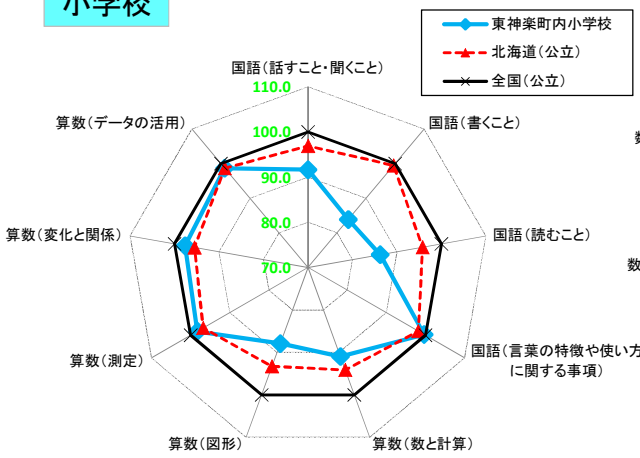
- ◎ 新学習指導要領の趣旨を踏まえた積極的・計画的な研修の実施
- ◎ 放課後や休日等における学習機会の提供や、授業改善推進チーム活用事業を活かした指導改善、習熟度別指導の充実
- ◎ 英語教育の充実を図る小・中学校の連携（加配教員活用、ALTの増員）
- ◎ １人１台端末の活用に向けた研修の実施、学習支援ソフトや電子黒板を効果的に活用した学習活動の推進

■東神楽町内の状況及び学力向上策　（小学校数：3校 、児童数：108人）（中学校数：1校 、生徒数：108人）

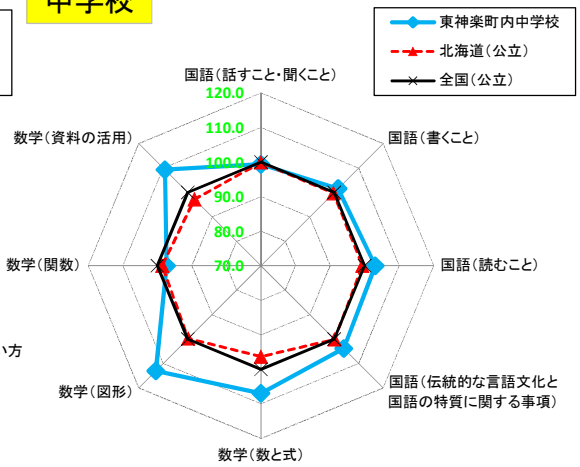
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

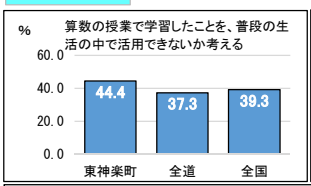


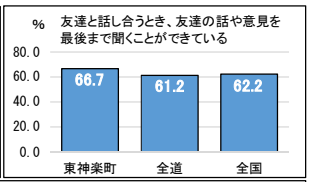
中学校

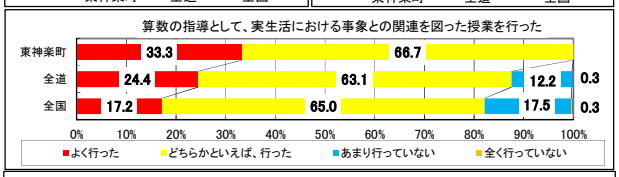


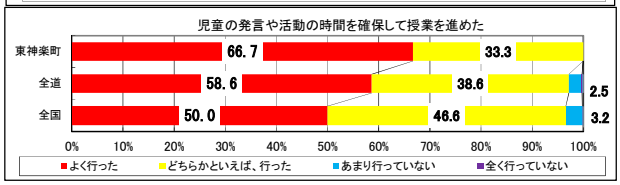
【質問紙の状況】

小学校

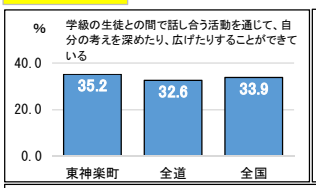


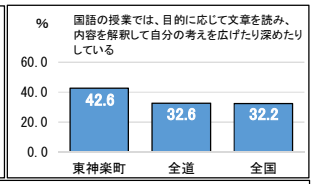


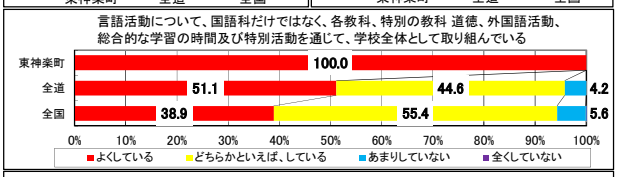


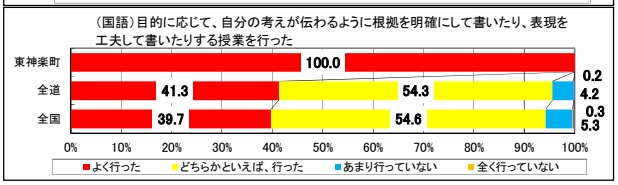


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数の学習において、日常的に、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、学習内容を身近な生活に置き換えて理解を深める姿が見られるようになり、学習した内容を、普段の生活の中で活用できないか積極的に考えると回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回り、ほとんどの領域・事項で全国及び全道を上回ったと考えられる。
市内の各学校において、日常的に、全ての教科で児童の発言や活動の時間を確保し、確実に発表や活動の機会を設けた授業を行ったことにより、考えたことや理解した内容をアウトプットすることを前提に学習に取り組む姿が見られ、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の学習において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりすることに重点をおいた授業を行ったことにより、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【東神楽町の学力向上策】

◎ 東神楽町教育イノベーションプログラムとして、小中一貫の9年間を見据えた教育の充実に向けた取組の推進
（東神楽町小中一貫教育推進委員会の充実・中学校専科教員による小学校乗り入れ指導の実施等）

◎ 1人1台端末の効果的な活用に向けた到達目標の設定、GIGAスクールサポーターの活用促進

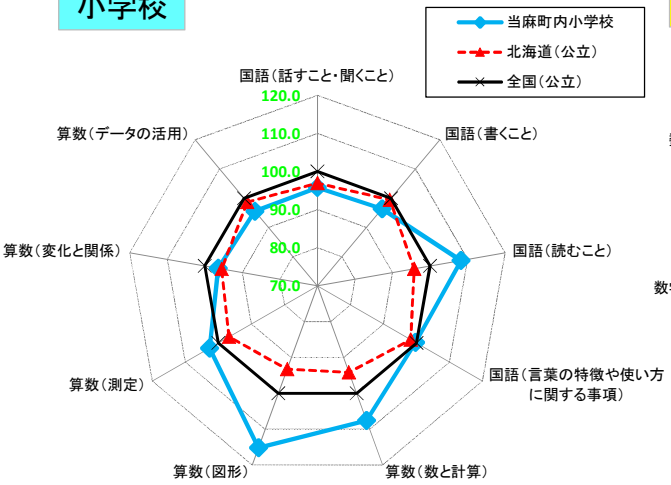
◎ 各学校の状況や規模に応じた習熟度別学習・通級指導の実践及び加配教員や支援員などの確保による個に応じた指導の充実

■当麻町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：47人）（中学校数：1校 、生徒数：44人）

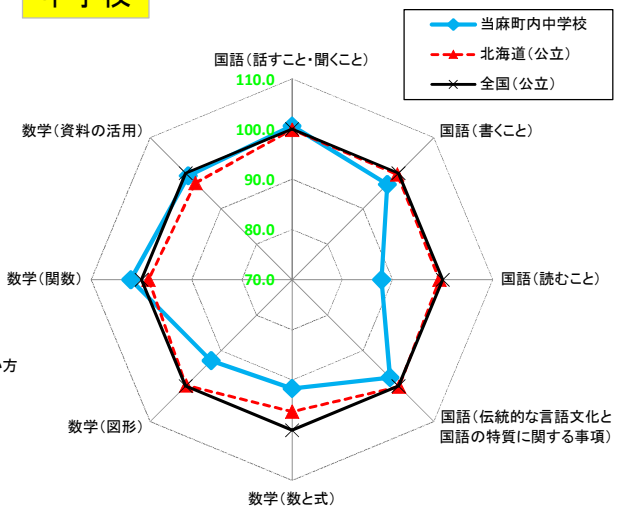
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

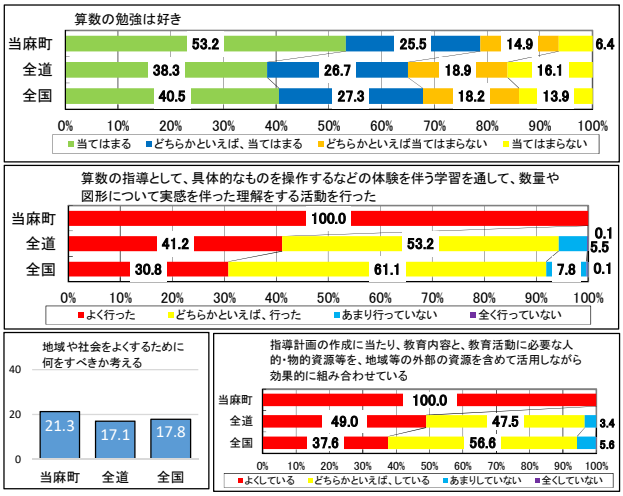


中学校

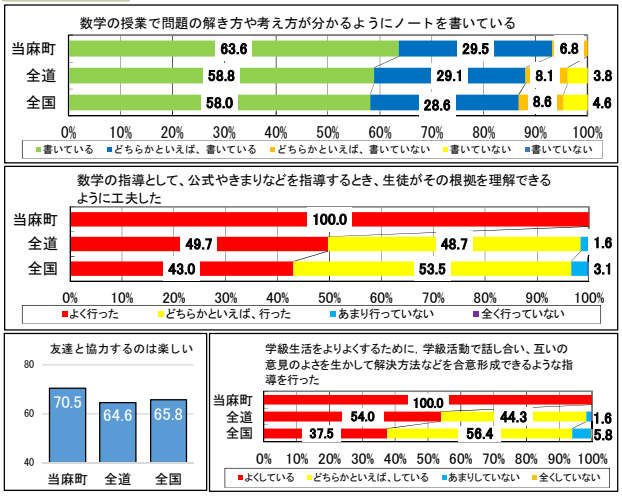


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数の学習において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、数学的活動の一層の充実が図られ、算数の勉強が好きと回答する児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	数学の学習において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫を行ったことにより、数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。
町内の全学校において、指導計画の作成に当たり、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせたことにより、地域や社会をよくするために何をすべきかを考える児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行ったことにより、友達と協力するのは楽しいと回答する生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【当麻町の学力向上策】

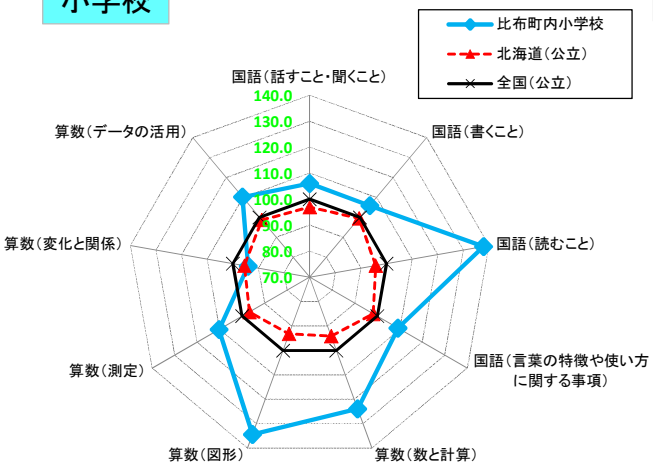
◎　チャレンジテストの効果的な活用及び長期休業中の学習サポートの実施による学力向上の取組の実施
◎　各学校への学習支援員及び英会話講師の配置による児童生徒の学習状況に応じた指導の充実
◎　各学校への英会話講師の配置による外国語でのコミュニケーション活動の充実
◎　長期休業中における1人1端末を活用した家庭学習の取組の実施

■比布町内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:21人）　（中学校数:1校 、生徒数:19人）

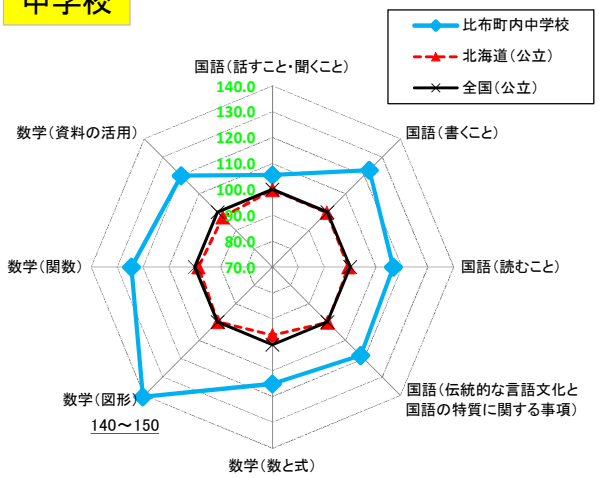
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



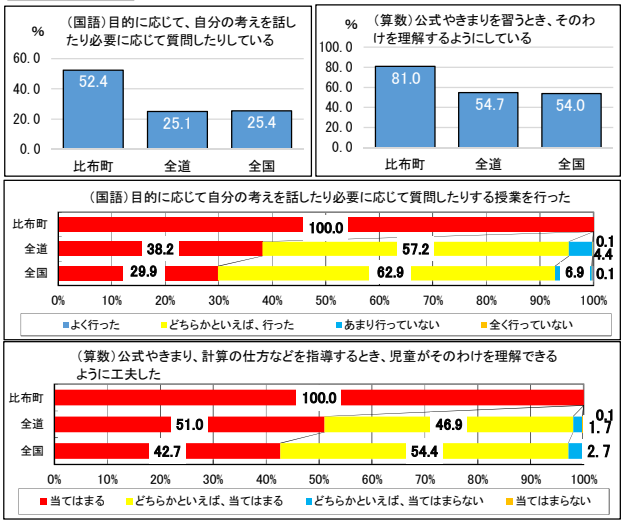
中学校



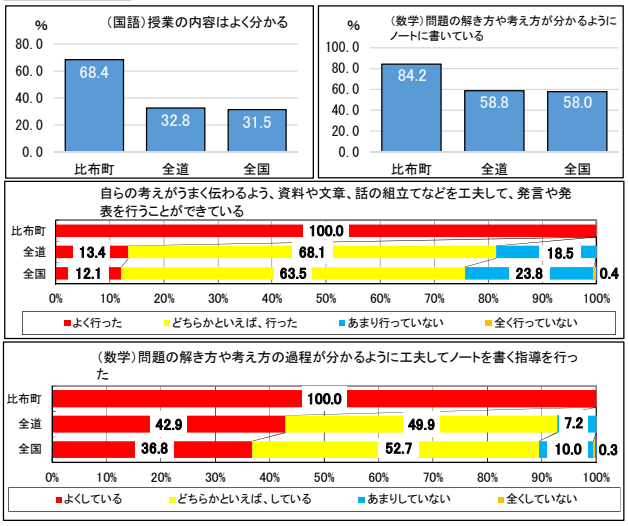
140～150

【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、児童がより主体的に目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回り、国語の全ての領域・事項で全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うよう指導したことにより、授業の内容がよく分かると感じる生徒の割合が全国及び全道を上回り、国語の全ての領域・事項で全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回り、算数のほとんどの領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の授業において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書くなど、思考の可視化に重点をおいて授業を行ったことにより、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回り、数学の全ての領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。

【比布町の学力向上策】

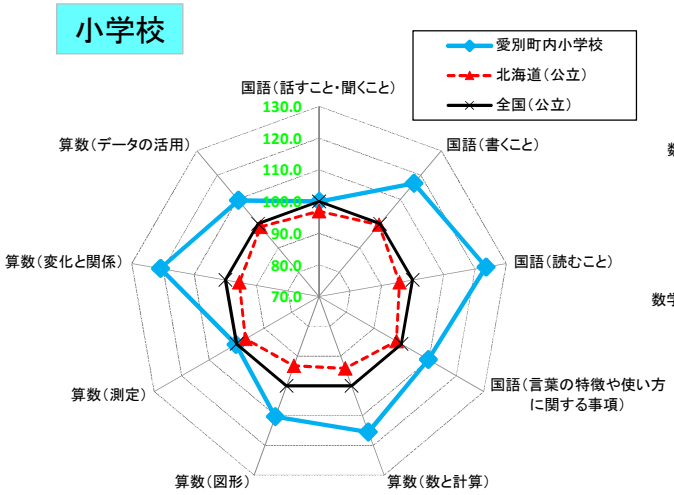
◎　中学校で必要な学力の基礎の定着を図る乗り入れ指導による小・中一貫校の取組の推進
◎　自ら考え、人に伝え、理解させる場の充実を図るICTの活用
◎　家庭での学習習慣の定着及び学力向上を図るため、町主催の長期休業中の学習支援事業、民間学習塾との連携事業の実施

■愛別町内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:12人）（中学校数:1校 、生徒数:22人）

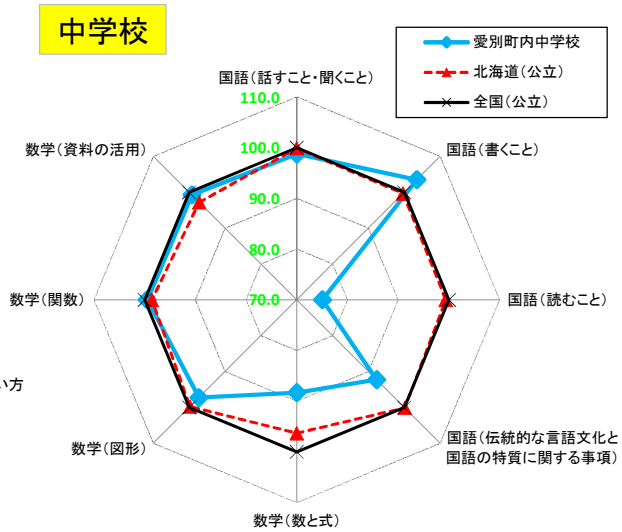
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

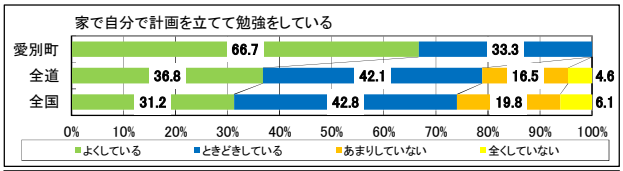


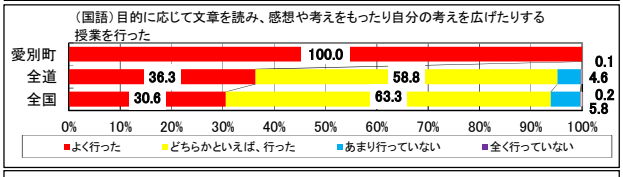
中学校

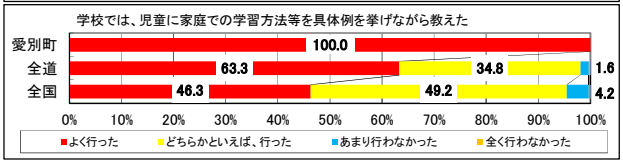


【質問紙の状況】

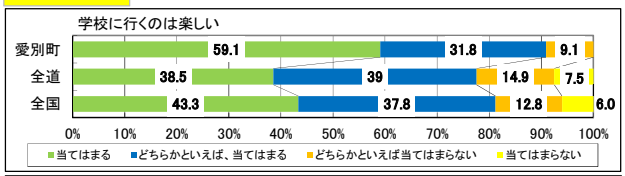
小学校

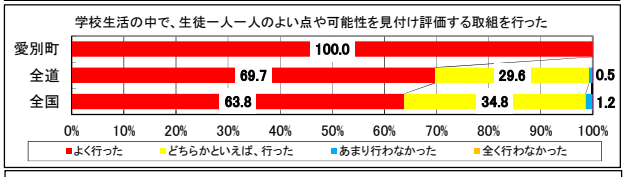


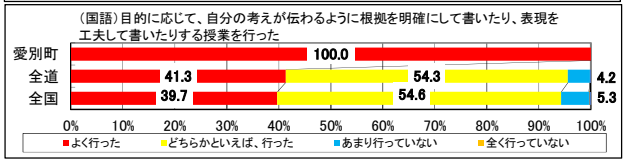




中学校







【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の学習において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、文章全体の構成を捉えたり、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けたりする力が身に付き、国語科のほとんどの領域・事項で全国を上回ったと考えられる。	国語の学習において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、文章を推敲したり、文章の構成の工夫について考えたりする力が身に付き、「書くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたことにより、家庭での学習に目的意識や見通しをもつことができ、家で自分で計画を立てて勉強する児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、生徒が学校を安心できる居場所として認識し、学校に行くのは楽しいと回答する生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【愛別町の学力向上策】

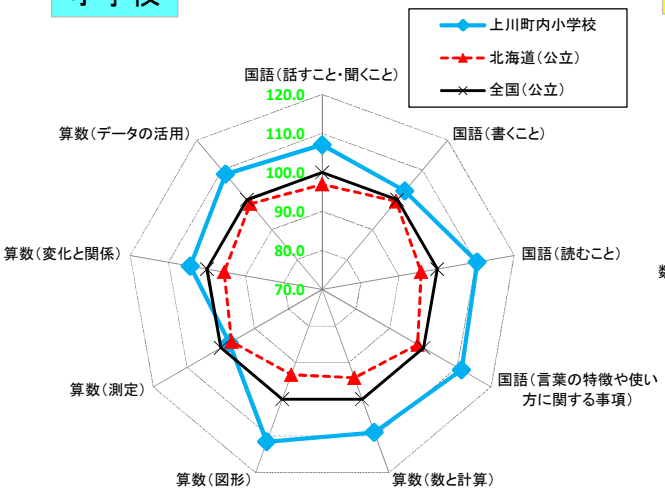
◎ 「学習の手引」を活用した家庭学習の習慣化と規則正しい生活習慣づくり
◎ 「学習サポート」や「チャレンジゼミ」「天神クラブ」など、放課後及び長期休業中の学習支援
◎ 小・中学校が連携した習熟度別等少人数指導とチーム・ティーチング
◎ ICTを活用した授業改善

■上川町内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:16人）（中学校数:1校 、生徒数:16人）

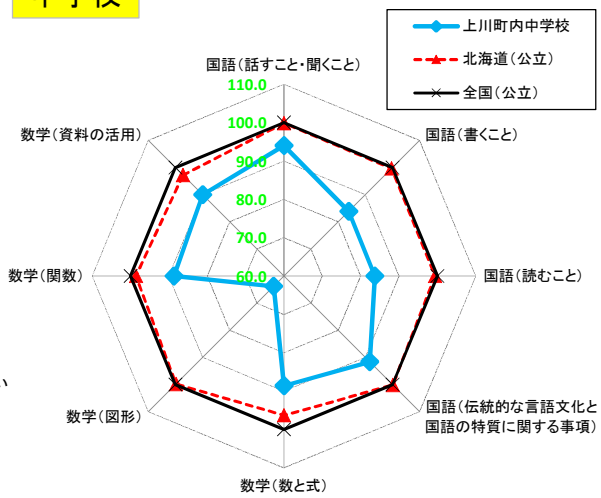
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

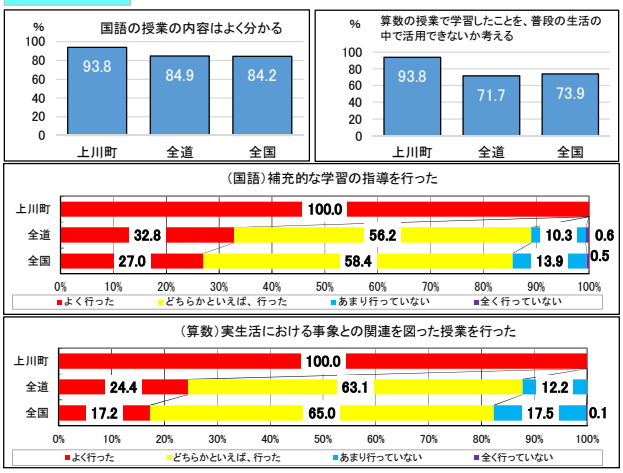


中学校

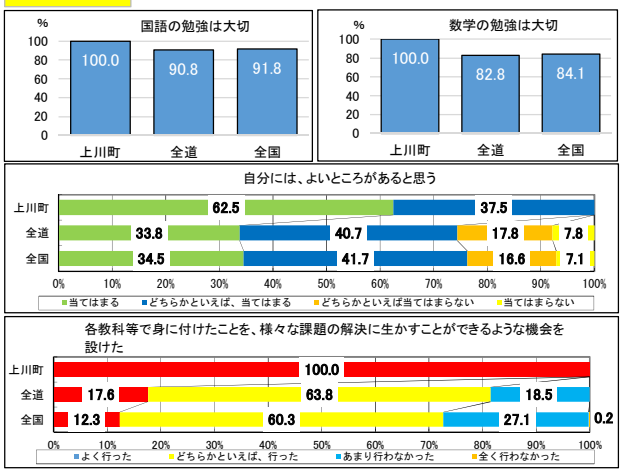


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の学習において、補充的な学習の指導を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かるようになり、国語の全ての領域・事項で全国を上回ったと考えられる。	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、学ぶことの意義について理解を深めることにつながり、国語及び数学の勉強は大切と回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。
算数の学習において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、児童が、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考え、算数と日常生活との関連についての理解を深めることにつながり、算数のほとんどの領域で全国を上回ったと考えられる。	学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価するなど、生徒の自己肯定感を高める取組を行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【上川町の学力向上策】

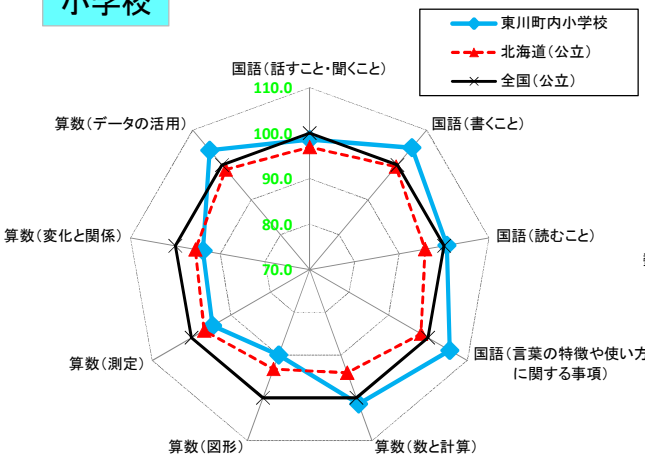
◎　習熟度に応じた指導やティーム・ティーチングの実施などによるきめ細かな指導の充実
◎　教育活動の活性化を図るため小・中学校が連携した実践交流や情報交換の実施
◎　1人1台端末の効果的な活用に向けた教職員の資質・能力向上のため町教育研究会などへの支援

■東川町内の状況及び学力向上策　（小学校数:4校 、児童数:73人）（中学校数:1校 、生徒数:66人）

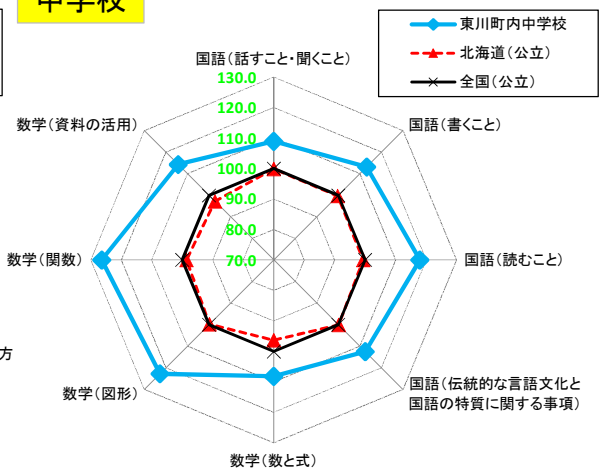
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

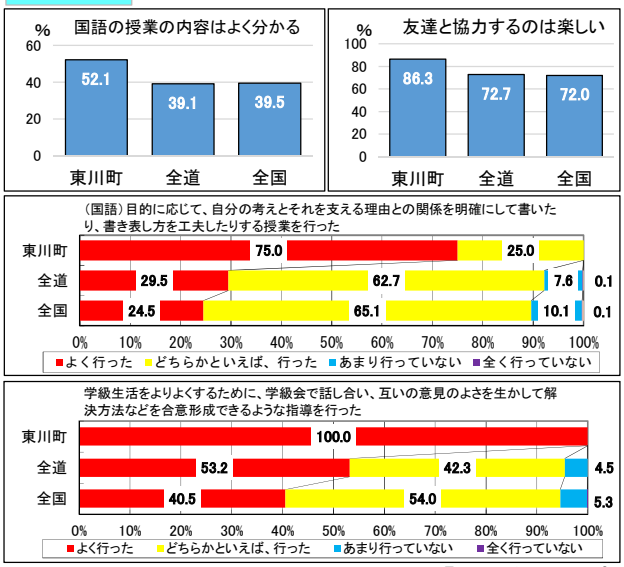


中学校

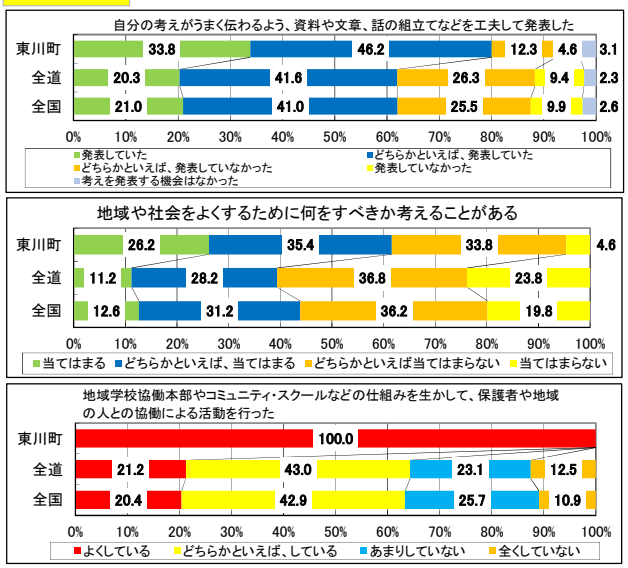


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の学習において、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握したり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かるようになり、国語のほとんどの領域・事項で全国を上回ったと考えられる。	生徒が主体的・対話的に学べるよう、生徒の発言の機会や活動の時間を確保したことにより、生徒が主体的に考え、生徒同士が考えを伝え合うことにつながり、国語及び数学の全ての領域・事項で全国を上回ったと考えられる。
町内の全学校において、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行ったことにより、友達と協力することが楽しいと感じる児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。	学校と保護者や地域が連携するとともに、新教科「Globe」の学習を通して、国際的な視野をもちながら、地域について考えることができるようになり、地域や社会をよくするために、自分にできることを考える生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

【東川町の学力向上策】

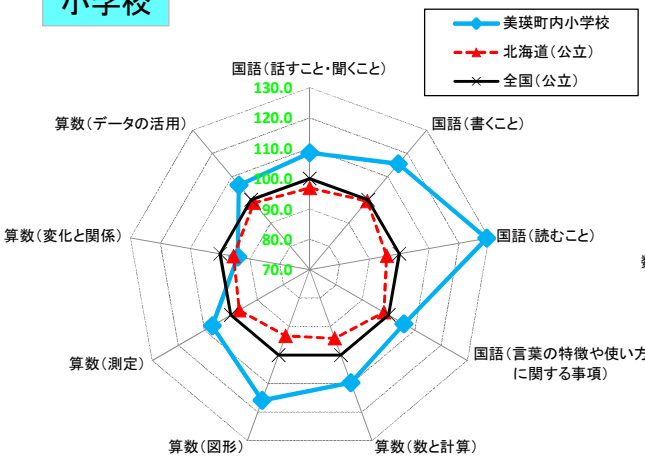
◎　質の高い授業に向けた校内研修などの教職員研修の充実
◎　学習支援員、教育補助員、特別支援教育支援員の配置による習熟の程度に応じた指導等の充実
◎　放課後学習サポート及び「地域未来塾」による生徒の学習内容の確実な定着に向けた取組の推進

■美瑛町内の状況及び学力向上策　（小学校数:5校 、児童数:77人）（中学校数:2校 、生徒数:57人）

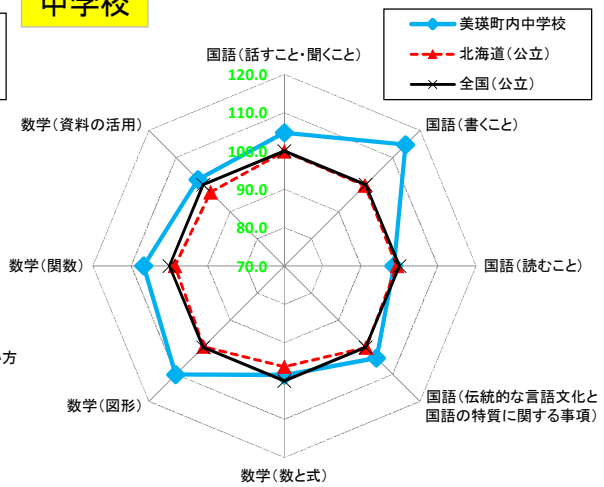
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

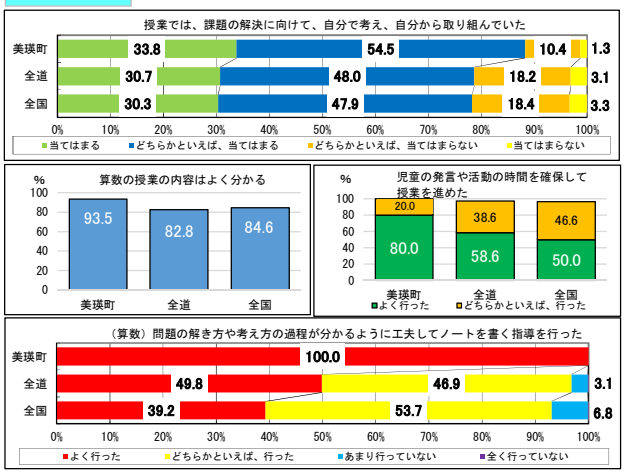


中学校

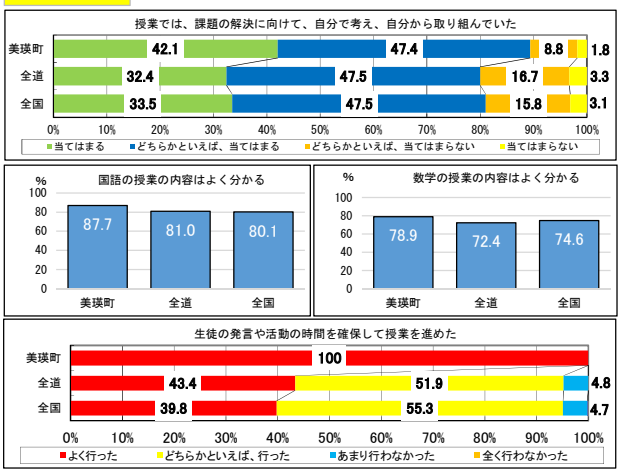


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
町内の各学校において、児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、児童が、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む主体的な学習につながり、ほとんどの領域・事項で全国を上回ったと考えられる。	町内の各学校において、生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、生徒が、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む主体的な学習につながり、ほとんどの領域・事項で全国を上回ったと考えられる。
算数の学習において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	町内の各学校において、授業研究や事例研究など、実践的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、国語及び数学の授業の内容がよく分かるようになり、ほとんどの領域で全国を上回ったと考えられる。

【美瑛町の学力向上策】

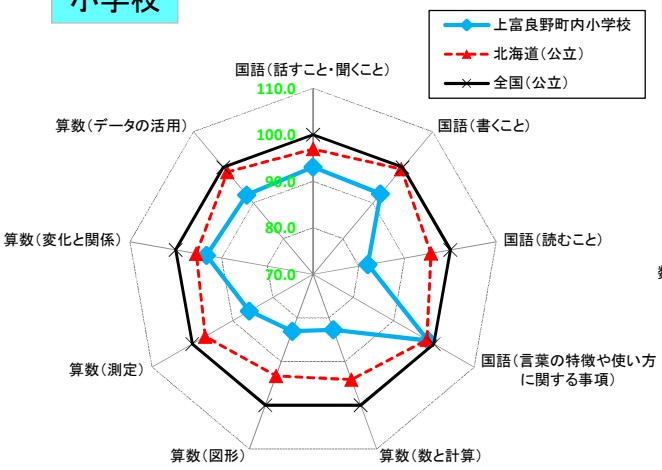
◎　美瑛町教育推進協議会による子ども理解支援ツール「ほっと」の活用、出前授業の実施など、中1ギャップの未然防止及び小・中学校教員相互の指導力の向上を図る取組の推進
◎　情報教育推進チームによる一人一台端末及びICT機器、デジタル教科書の効果的な活用に関する授業研究の推進
◎　児童生徒自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修の推進

■上富良野町内の状況及び学力向上策　（小学校数:3校 、児童数:81人）（中学校数:1校 、生徒数:84人）

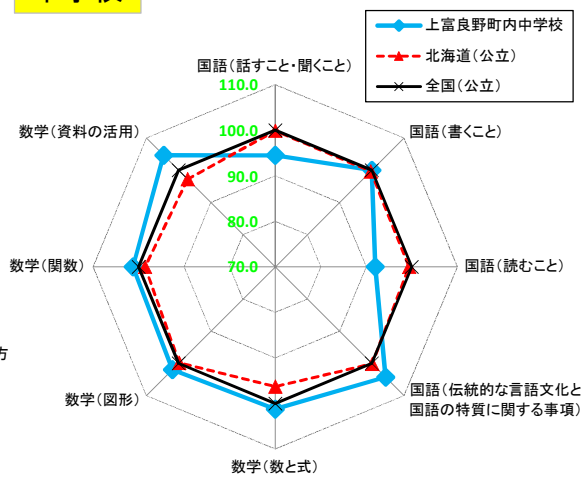
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

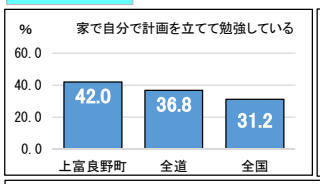


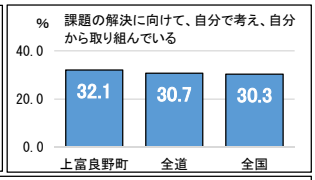
中学校

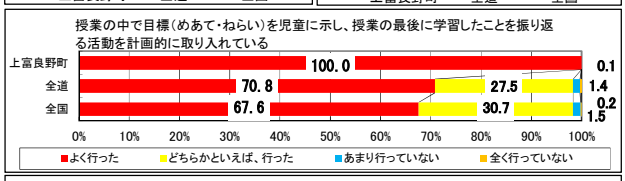


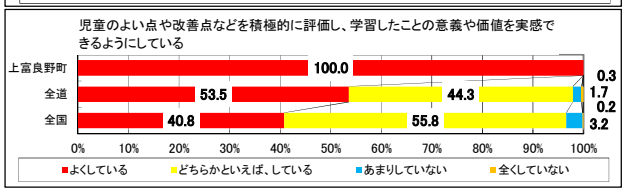
【質問紙の状況】

小学校

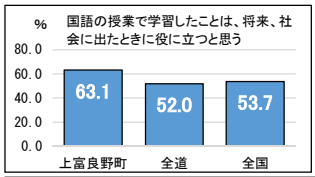


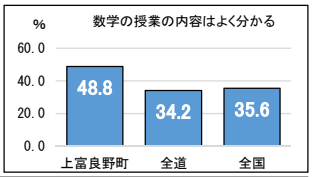


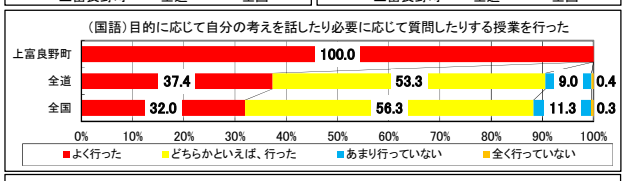


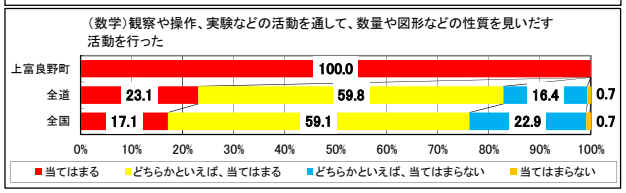


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
町内の全学校において、授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、日常的に目標に向かって計画を立てて振り返る姿が見られるようになり、家で自分で計画を立てて勉強する児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の学習において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町内の全学校において、児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるよう日常の授業を改善したことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むなど、学習に主体的に取り組んでいると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の学習において、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動に重点をおいて指導を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回り、数学の全ての領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上富良野町の学力向上策】

◎ 「確かな学力の育成プラン」に基づき、小・中学校の共通課題解決に向けて具体方策の共有と授業改善の推進

◎ ICT機器を積極的に活用し「個別最適な学び」に向けた小中連携した授業改善の推進

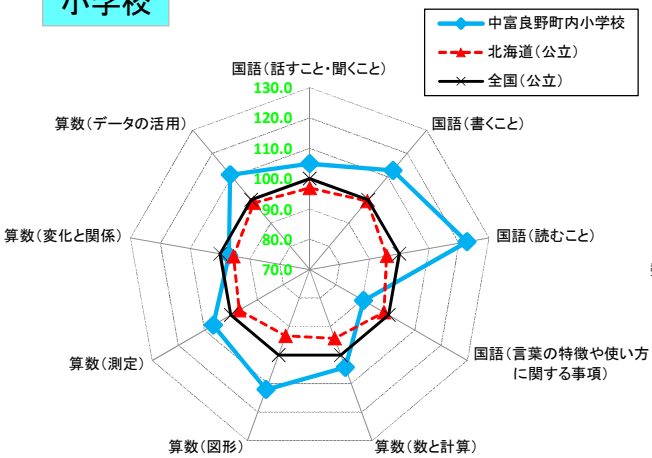
◎ 教育委員会作成の「家庭学習のすすめ」に基づき、家庭との連携を更に図り、計画的な家庭学習習慣を基盤とした家庭学習時間増への取組の推進

■中富良野町内の状況及び学力向上策　（小学校数:4校 、児童数:38人）（中学校数:1校 、生徒数:46人）

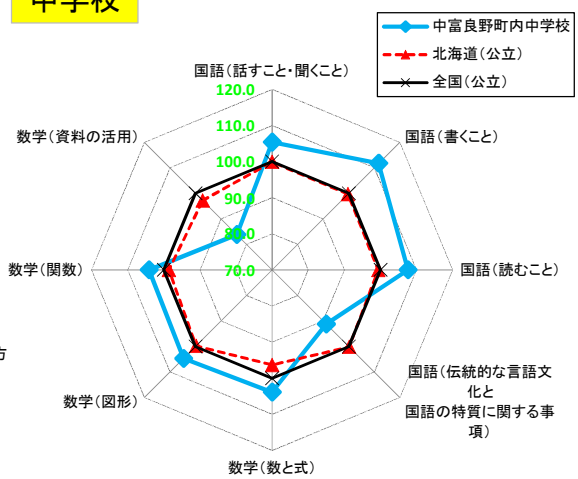
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

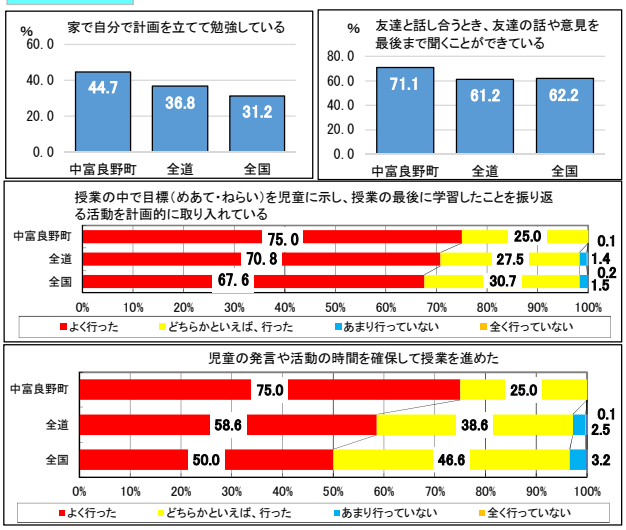


中学校

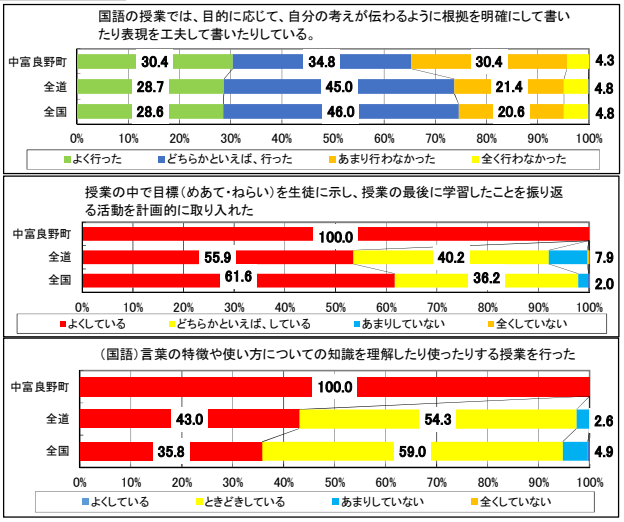


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
町内の各学校において、授業の中で目標を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、日常的に目標に向かって計画を立て、目標に対して振り返る姿が見られるようになり、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	学校全体で、自分の考えを表現する生徒に向けた取組を進めたことにより、国語の学習において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていると回答した生徒が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町内の各学校において、日常的に児童の発言や活動の時間を確保し、確実に発表や活動の機会を設けた授業を行ったことにより、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると回答した児童が全国及び全道を上回り、国語科の3つの領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の学習において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする言語活動を重点に授業を行ったことにより、目標に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする生徒が全国及び全道の割合を上回り、国語の3つの領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。

【中富良野町の学力向上策】

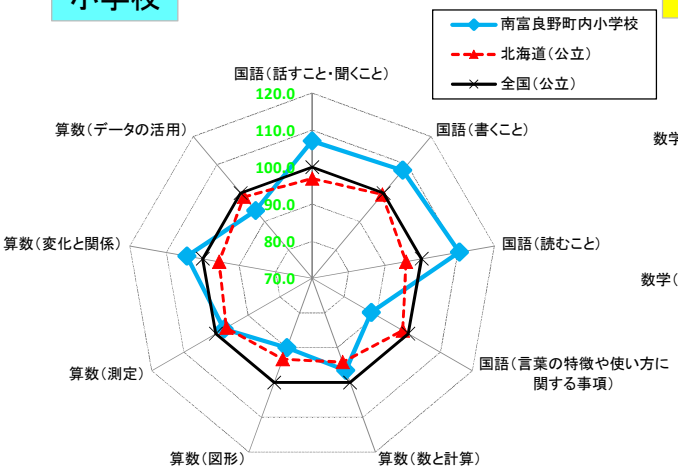
◎　習熟度に応じた指導など基礎・基本の確実な定着のための加配教員、学習支援員等の活用による校内組織体制の確立
◎　家庭との連携も含めて言語活動の充実を図るための「朝読」「家読」の取組による読書活動の推進
◎　1人1台端末を効果的に取り入れた授業改善や先進事例の研究の推進

■南富良野町内の状況及び学力向上策　（小学校数:2校 、児童数:16人）（中学校数:1校 、生徒数:12人）

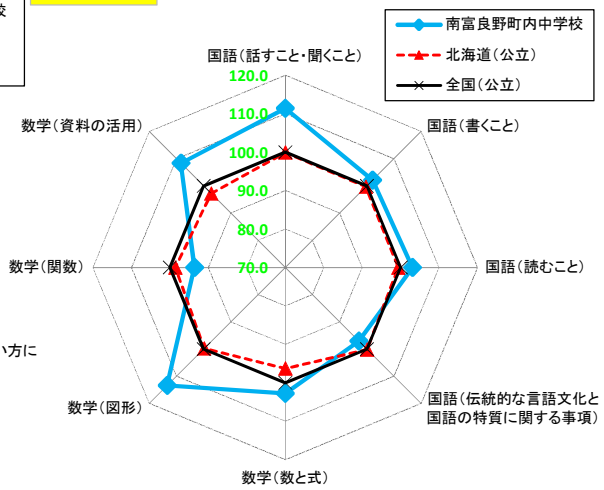
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

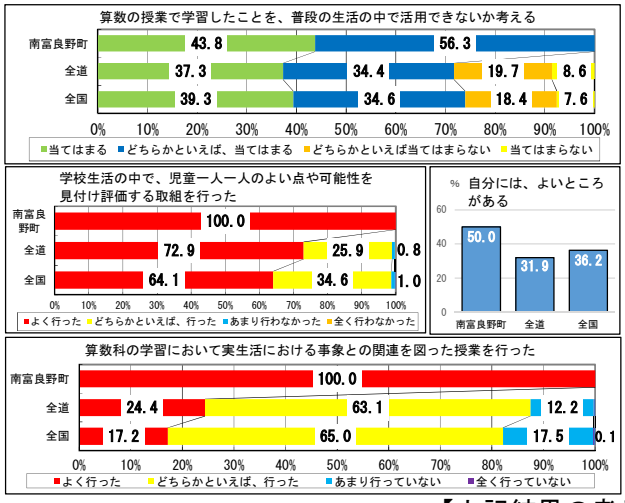


中学校

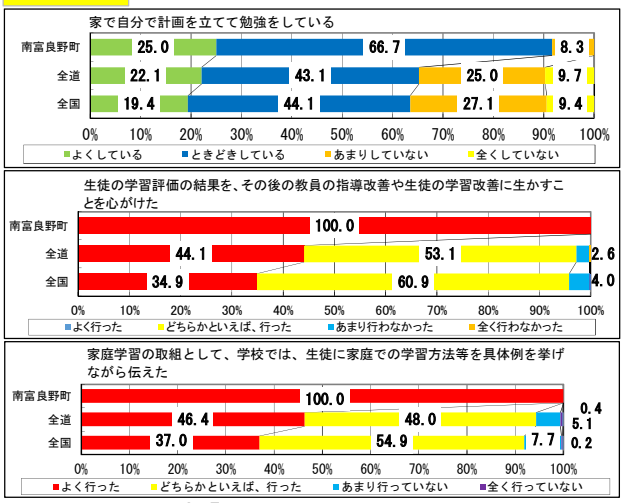


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数の学習において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力が育成され、算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけたことにより、指導と評価の一体化が図られ、国語及び数学のほとんどの領域で全国を上回ったと考えられる。
学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、児童の自己肯定感が高まり、自分には、よいところがあると回答する児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、生徒は家庭での学習に目的意識や見通しを持つことができ、家庭で自分で計画を立てて勉強する生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【南富良野町の学力向上策】

◎　主体的な学びを推進し、家庭学習の習慣化と学び方の指導及び「調べ学習」などに1人1台端末を積極的に活用
◎　小・中・高連携により、教員の資質能力向上を図るため外部講師による学力向上講習の実施
◎　家庭と連携した適正な学習環境づくりの推進

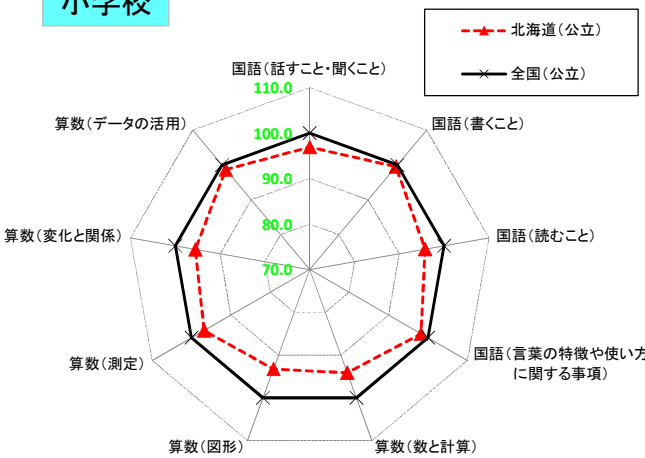
■占冠村内の状況及び学力向上策　（小学校数:2校 、児童数:6人）（中学校数:2校 、生徒数:4人）

【教科全体の状況】

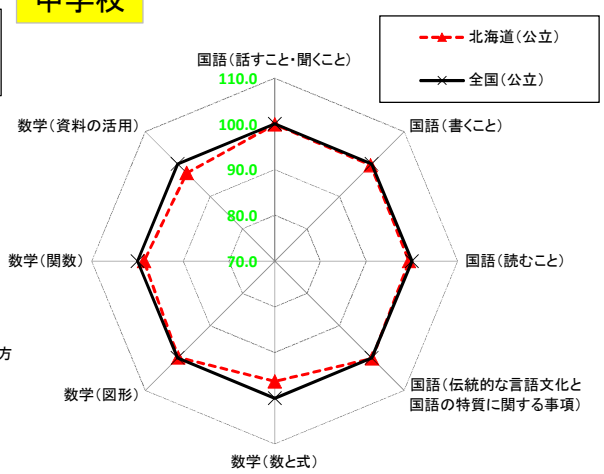
※ 児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、占冠村の教科のデータは掲載していない。

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

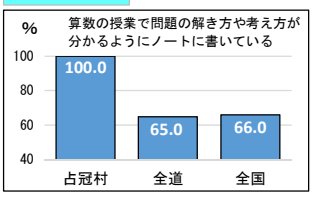


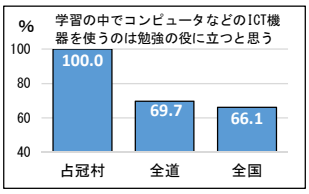
中学校

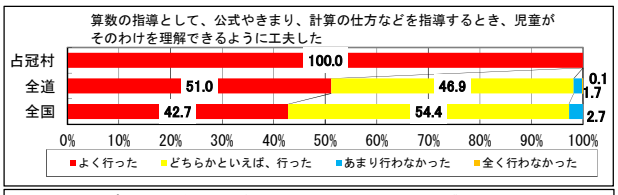


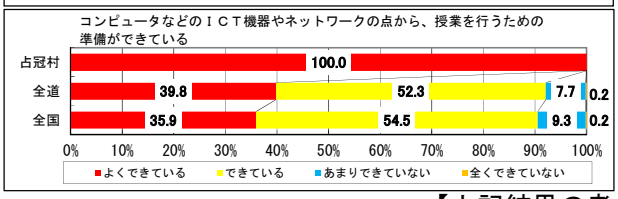
【質問紙の状況】

小学校

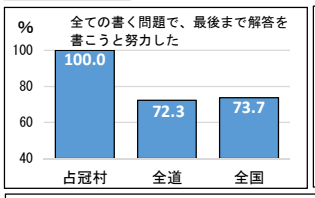


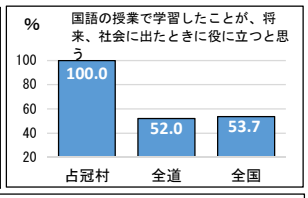


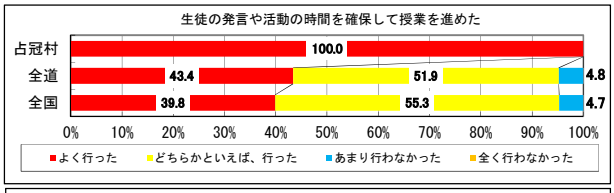


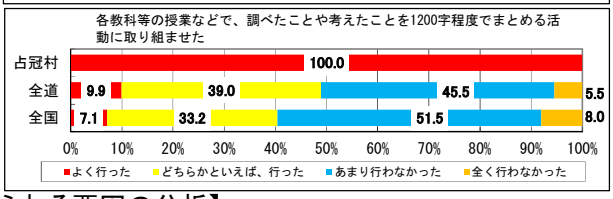


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数の学習において、公式やきまり、計算の仕方などを指導する際、児童がそのわけを理解できるよう工夫した授業を行ったことにより、児童は、問題の解き方や考え方が分かるよう工夫してノートに書くとともに、言葉や数、式を使ってわけや求め方などを書く問題に対して粘り強く取り組むことができるようになったと考えられる。	主体的・対話的で深い学びからの授業改善の視点を全教員が意識し、生徒の発言の機会や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、生徒が、話合いなどの活動において、自分の考えを相手にしっかりと伝えたり、相手の考えを最後まで聞いたりすることができるようになったと考えられる。
村内の各学校において、ICT機器等を活用した授業や遠隔・オンライン授業を行う準備を進め、積極的に授業実践を行ったことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと感じる児童の割合が全国平均を上回ったと考えられる。	学校として、各教科等の授業において、調べたことや考えたことを文章でまとめる活動に取り組んだことにより、生徒が、課題等に対して、最後まで粘り強く取り組むことができるようになったと考えられる。

【占冠村の学力向上策】

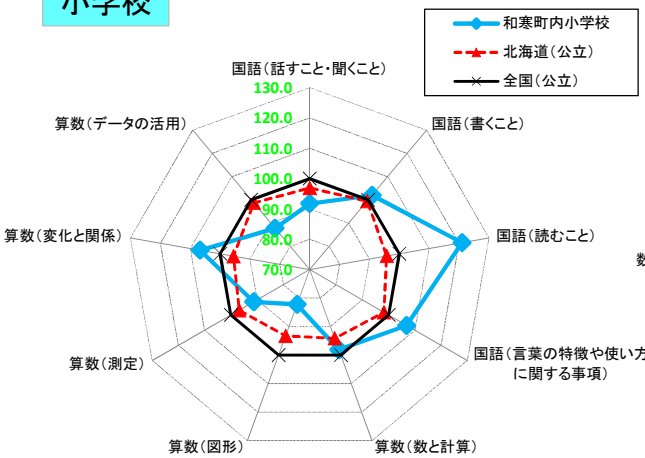
◎ 義務教育9年間を見通した教育課程の編成など、小中連携教育の推進
◎ 小中一貫教育を推進し、乗り入れ指導を積極的に取り組む
◎ オンラインによる家庭学習を進めるための環境整備

■和寒町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：21人）（中学校数：1校 、生徒数：26人）

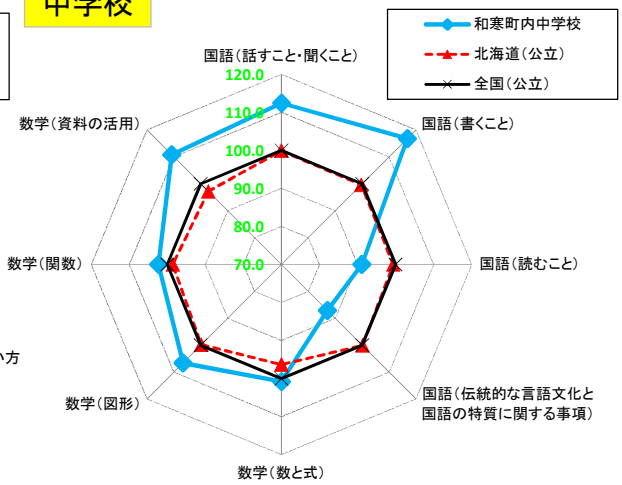
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

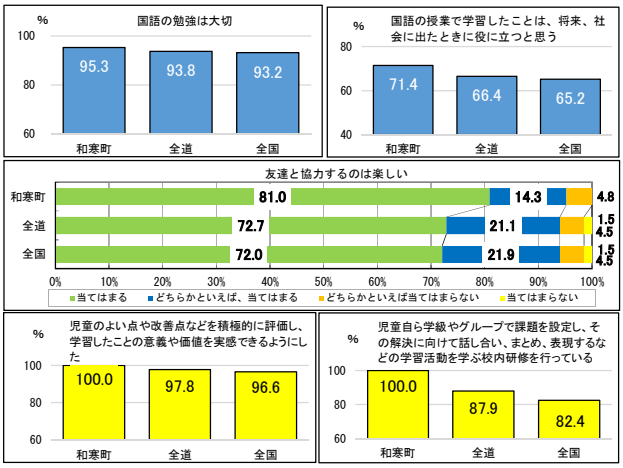


中学校

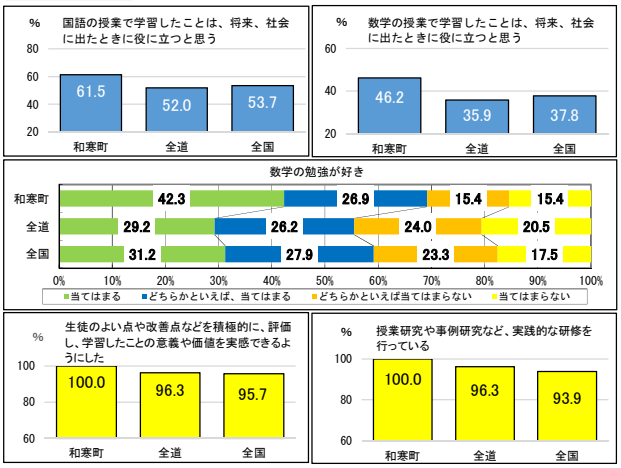


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語の勉強は大切で、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、国語のほとんどの領域・事項において全国を上回ったと考えられる。	生徒のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語及び数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。
児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が図られ、友達と協力することが楽しいと感じる児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	授業研究や事例研究など、実践的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、数学の全ての領域で全国を上回ったと考えられる。

【和寒町の学力向上策】

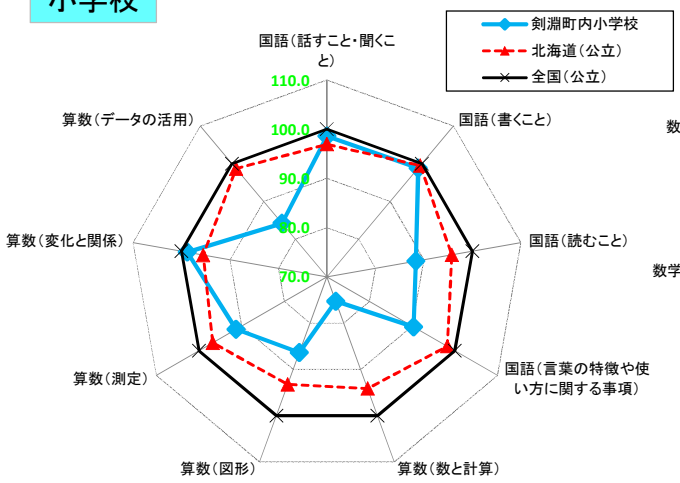
- ◎ 指導体制（T・T、少人数指導等）やステップアップ教室（町教委主催）の実施による基礎学力の向上
- ◎ 各種の研修（町教研、校内研、授業改善チーム）等を通した教職員の情報共有と授業力の向上
- ◎ ALTの専任化とALTによる授業及び英語イベント（ジュニアイングリッシュ、イングリッシュムービーデイ等）を通した英語教育の充実
- ◎ ICTの活用による学校及び家庭（臨時休業時の対応を含む）における学習活動の充実

■剣淵町内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:20人）　（中学校数:1校 、生徒数:19人）

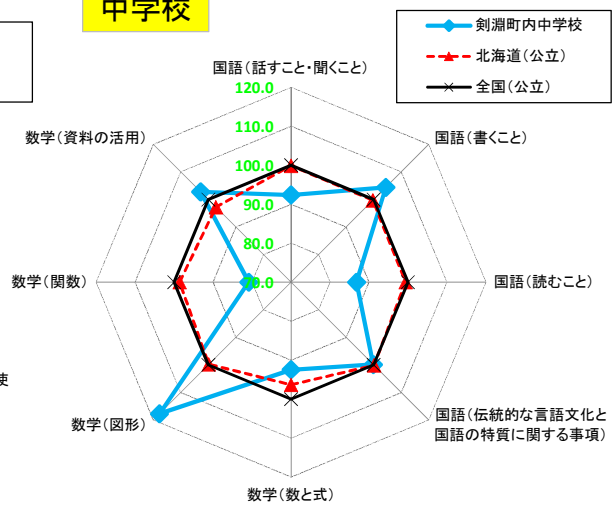
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

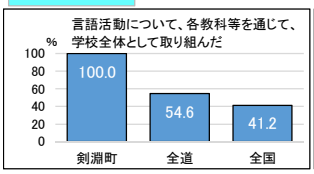


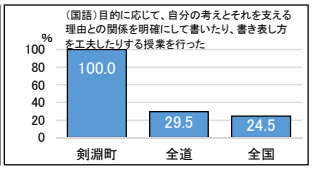
中学校

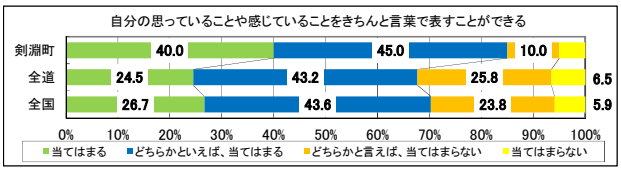


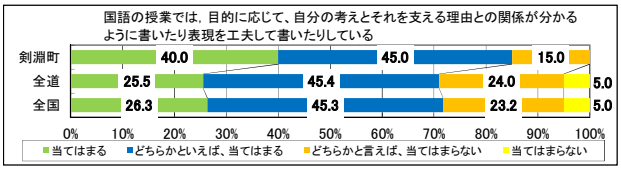
【質問紙の状況】

小学校

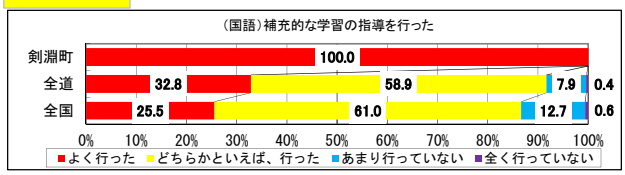


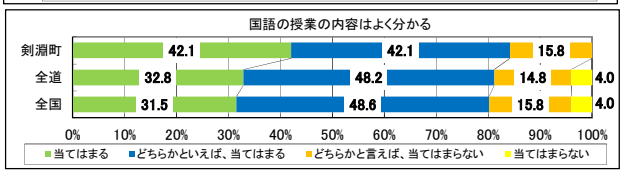


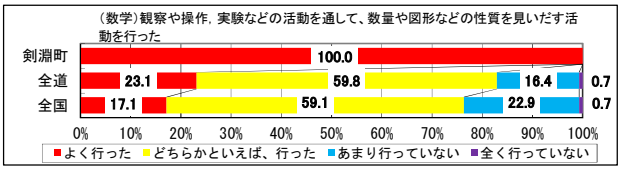




中学校







【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	学校として、授業改善に取り組み、調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。
国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	数学の指導として、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行ったことにより、「図形」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【剣淵町の学力向上策】

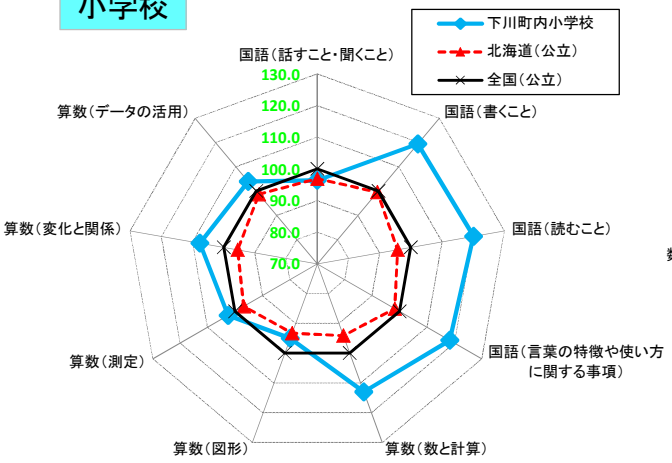
◎　調査結果の分析・活用による組織的な指導方法や指導体制の工夫改善
◎　1人1台端末を有効に活用した授業改善の推進
◎　指導工夫改善計画に基づく習熟度別学習指導の充実

■下川町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：20人）　（中学校数：1校 、生徒数：23人）

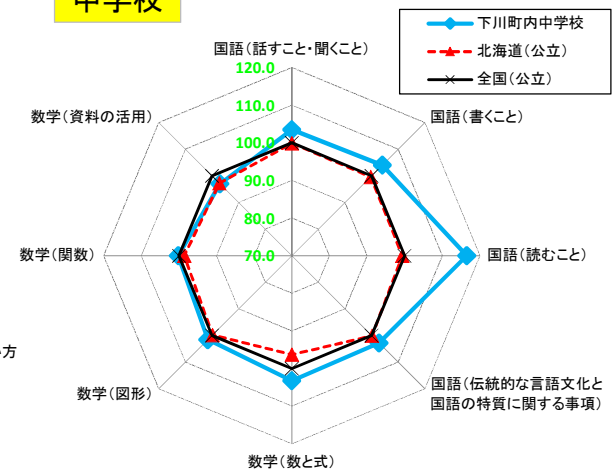
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

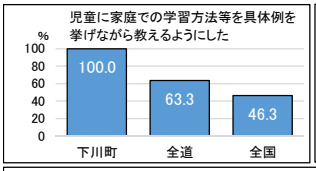


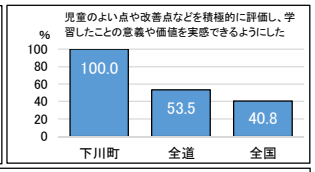
中学校

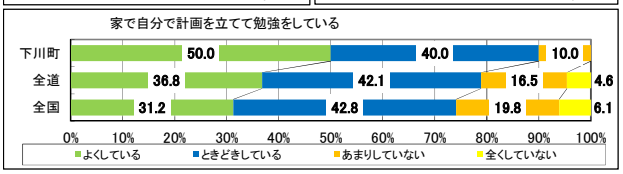


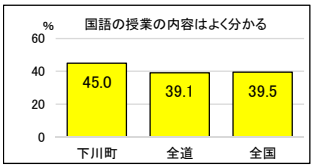
【質問紙の状況】

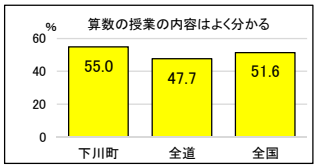
小学校



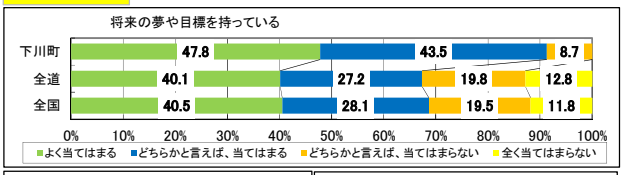


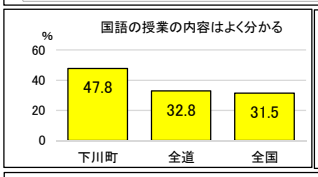


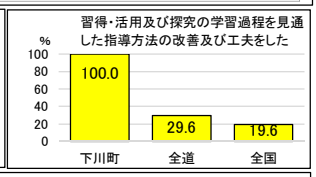


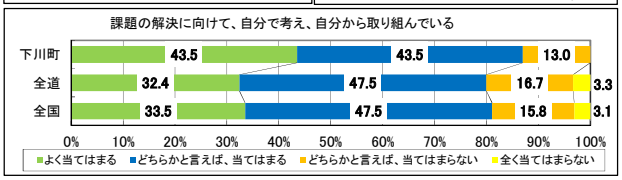


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図り、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、家で自分で計画を立てて学校の授業の予習や復習を含む勉強をしていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。
児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語の授業の内容はよく分かるや算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、国語、算数の複数の領域・事項で正答率が全国を上回ったと考えられる。	国語の指導として、補充的な学習の指導や発展的な学習の指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答する生徒の割合が全国を上回るとともに、国語の全ての領域・事項で正答率が全国を上回ったと考えられる。
	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【下川町の学力向上策】

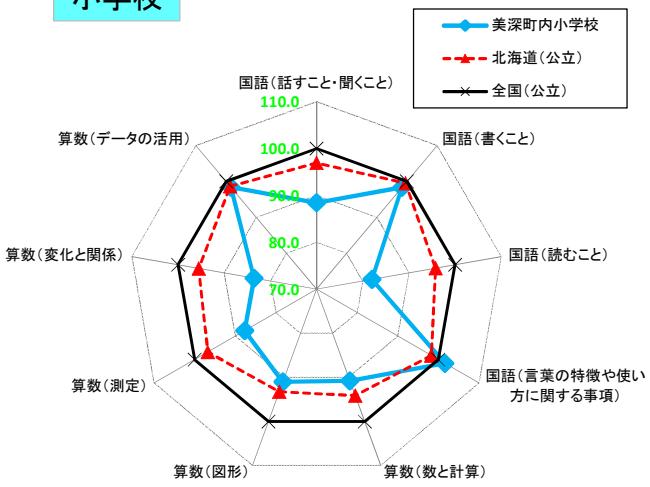
◎　児童生徒や保護者、地域の実態を踏まえた学校の教育目標に基づく創意ある教育課程の編成や指導方法の工夫改善
◎　ICT教育の推進による個別最適な学びと、協働的な学びを実現する学習環境の整備
◎　学校以外で子供の学びを支える「ウィークエンドスクール」や「キッズスクール」等の充実

■美深町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：31人）（中学校数：2校 、生徒数：23人）

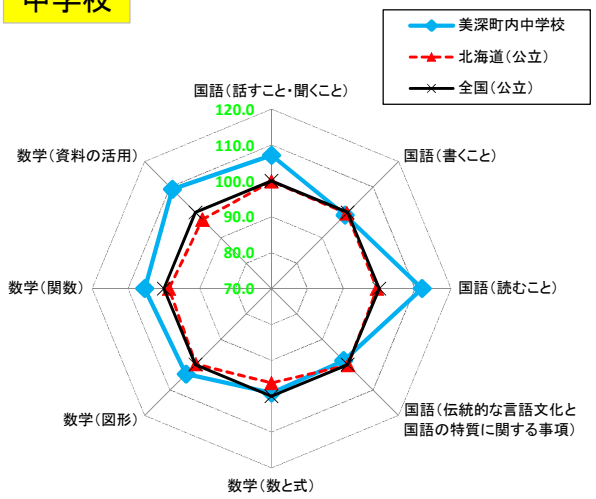
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

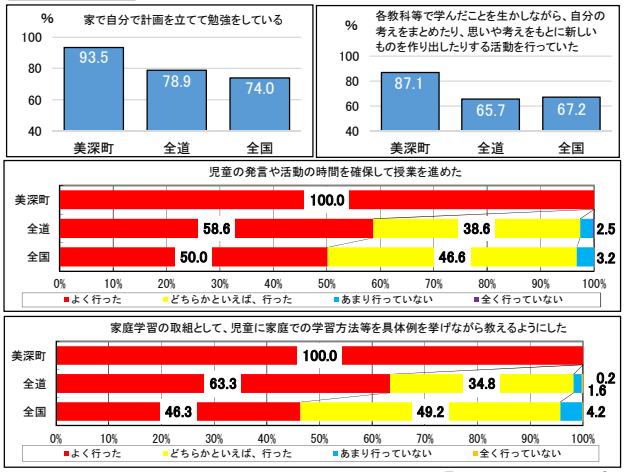


中学校

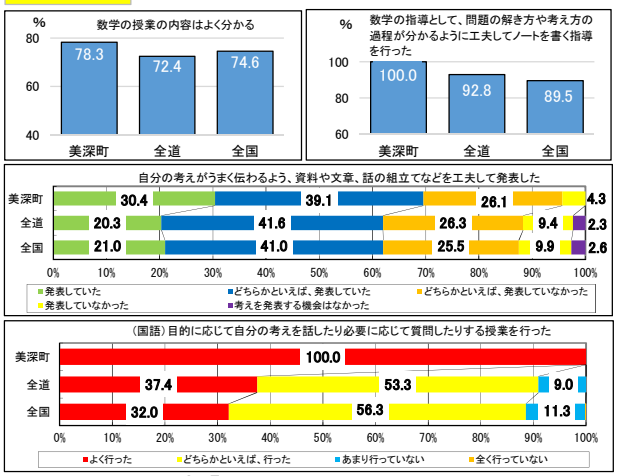


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
町内の各学校において、児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていたと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	国語の学習において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。
町内の各学校において、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、家で自分で計画を立てて学習している児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	町内の各学校において、数学の指導として、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、数学の授業の内容がよく分かるようになり、ほとんどの領域で全国を上回ったと考えられる。

【美深町の学力向上策】

◎　学校運営協議会を通じ、地域の声を生かした教育活動の推進
◎　習熟度別指導やティーム・ティーチング、更にはリーディングスキルテストを活用した指導及び学力向上の推進
◎　ALT等の人材活用による外国語教育の推進
◎　1人1台端末を活用した児童生徒に合わせた効果的な学習の推進

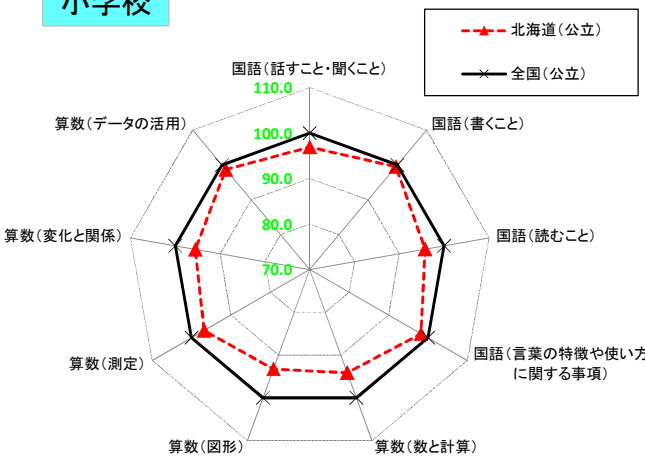
■音威子府村内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:3人）（中学校数:1校 、生徒数:2人）

【教科全体の状況】

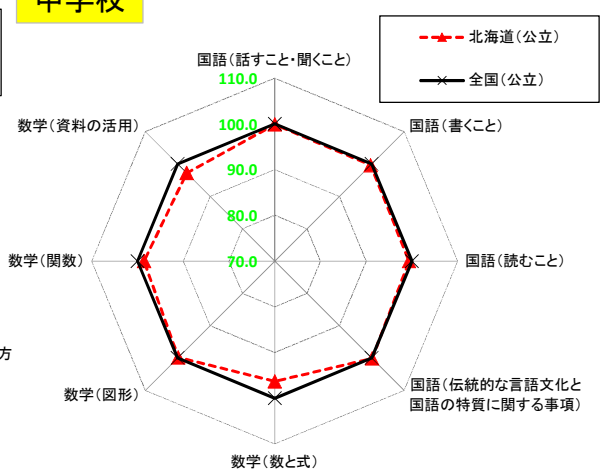
※ 児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、音威子府村の教科のデータは掲載していない。

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

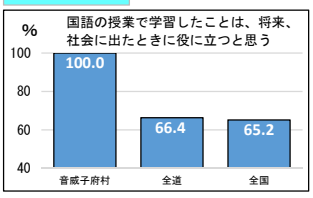


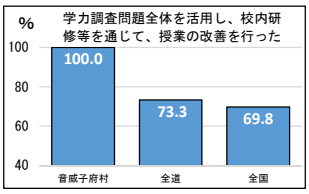
中学校

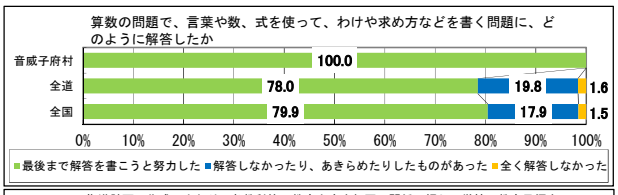


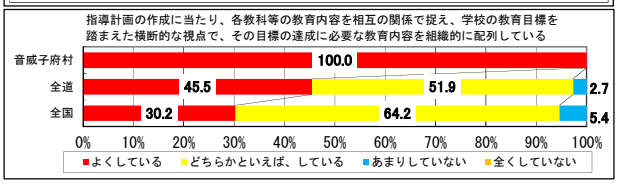
【質問紙の状況】

小学校

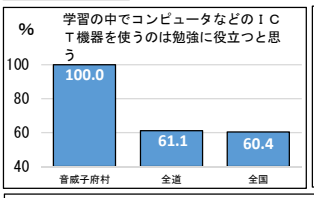


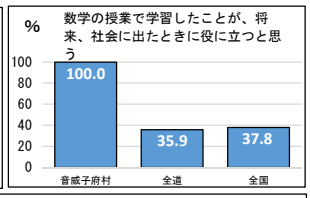


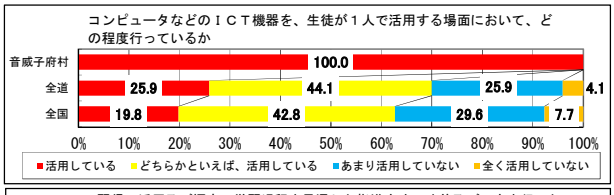


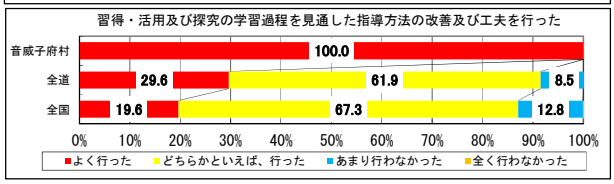


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数の学習において、調査問題を活用し、授業の改善に取り組んだことにより、児童は、問題の解き方や考え方がわかるよう工夫してノートに書くとともに、言葉や数、式を使ってわけや求め方などを書く問題に対して粘り強く取り組むことができるようになったと考えられる。	生徒が１人でコンピュータなどのICT機器を活用する学習活動を積極的に取り組んだことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うことのよさに気付き、他の生徒との意見を交換したり、調べたりするためにICT機器を使用する生徒の割合が全国平均を上回ったと考えられる。
指導計画の作成に当たり、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列したことにより、学習した内容は社会に出たときに役に立つと思う児童の割合が全国平均を上回ったと考えられる。	学校として、各教科等の授業において、習得及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫に取り組んだことにより、学習した内容は社会に出たときに役に立つと思う生徒の割合が全国平均を上回ったと考えられる。

【音威子府村の学力向上策】

◎ 小中ともに総合的な学習の時間で端末を使った探求活動及びプレゼンテーションソフトを活用した発表会
◎ 全校統一した朝学習、宿題、家庭学習等の取組
◎ 小中分かれての全国学力・学習状況調査の分析及び研修とリンクした改善策の策定

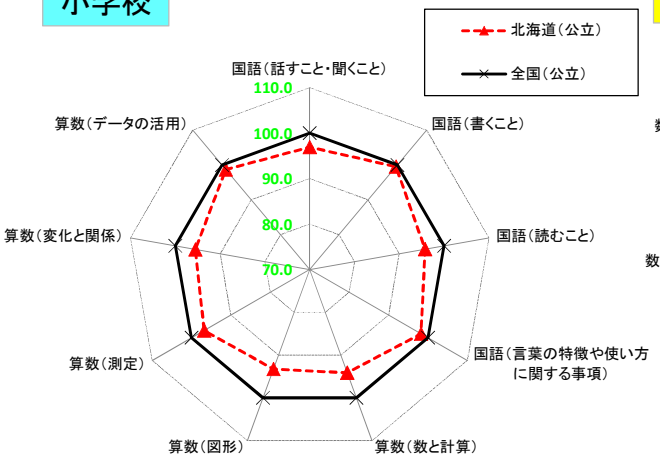
■中川町内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:8人）（中学校数:1校 、生徒数:6人）

【教科全体の状況】

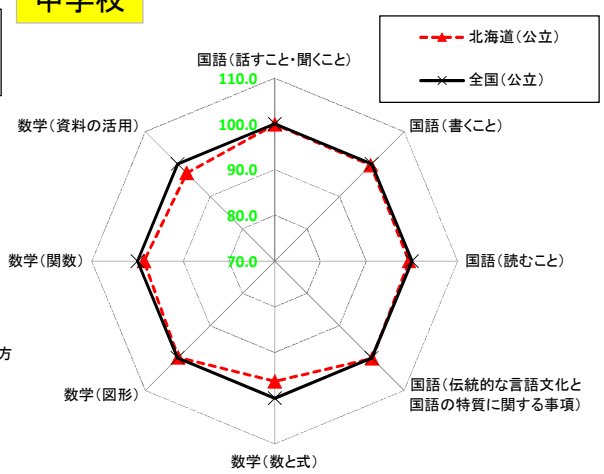
※ 児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、中川町の教科のデータは掲載していない。

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

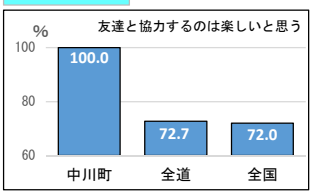


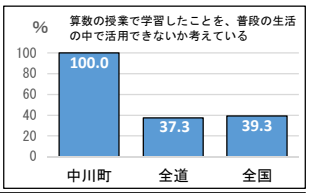
中学校

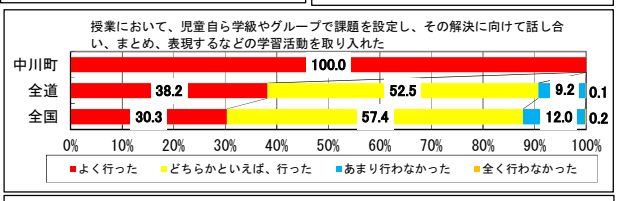


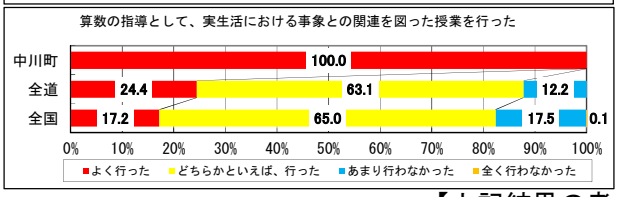
【質問紙の状況】

小学校

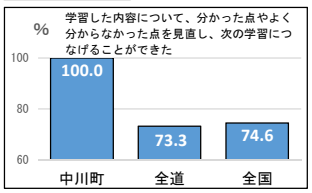


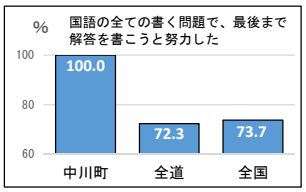


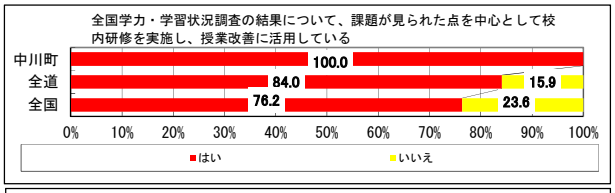


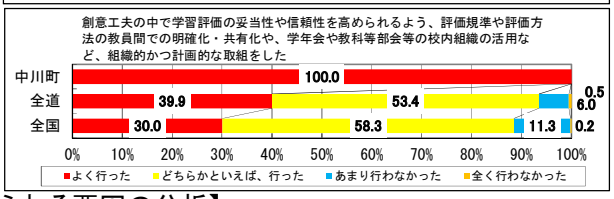


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業において、児童自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動を取り入れたことにより、児童は、協力する楽しさとよさを感じ、特に話合いの活動において、自分の考えを深めたり広げたりすることができるようになったと考えられる。	家庭学習について、教科書に基づく学習内容や学校が作成したプリント等を活用して組織的に取り組んだことにより、生徒が、自分で計画を立てて勉強する姿が見られるようになり、学校で学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるようになったと考えられる。
算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、児童は、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるようになり、算数の勉強が好きと回答する児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	学校として、調査結果を校内研修等で活用して授業改善に取り組んだり、学習評価の妥当性や信頼性を高める取組を進めたことにより、授業改善が図られ、生徒が課題等に対して、最後まで粘り強く取り組むことができるようになったと考えられる。

【中川町の学力向上策】

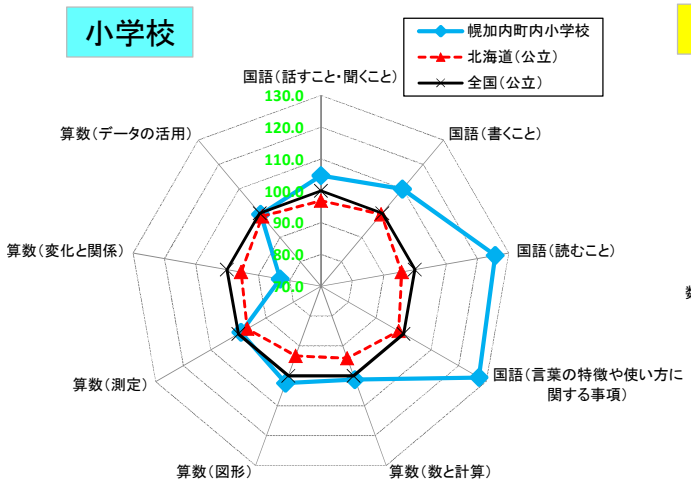
- ◎ 学習内容の確実な定着を図る朝・放課後サポート学習での補習や追試の実施
- ◎ ボランティアを活用した放課後学習支援「なかがわ塾」による基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた取組の充実
- ◎ 義務教育9年間を見通した教育課程の編成など、小中連携教育の推進
- ◎ 中川町学校教育情報化検討会議を設置し、ICT機器の効果的な活用による授業の質的向上に向けた取組の推進

■幌加内町内の状況及び学力向上策　（小学校数:2校 、児童数:9人）　（中学校数:1校 、生徒数:10人）

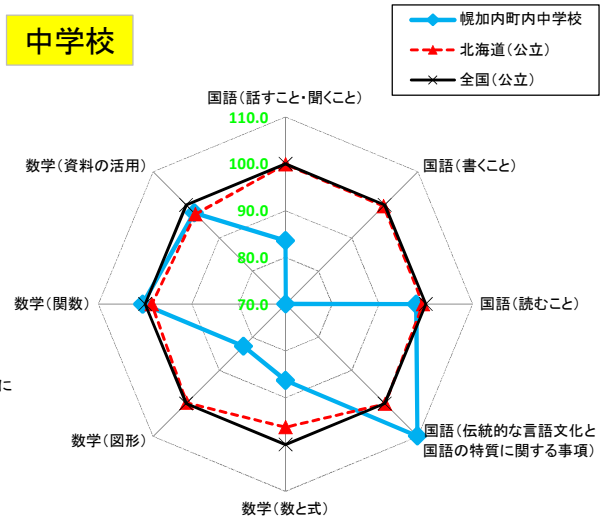
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

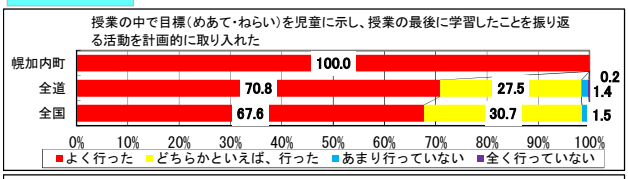


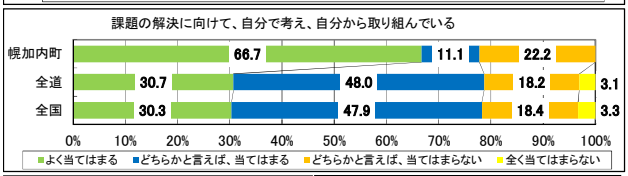
中学校

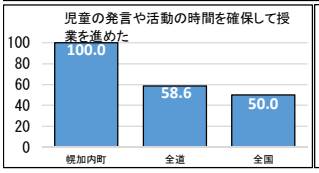


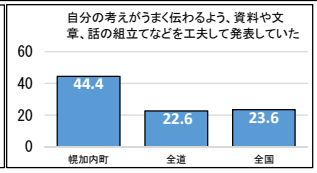
【質問紙の状況】

小学校

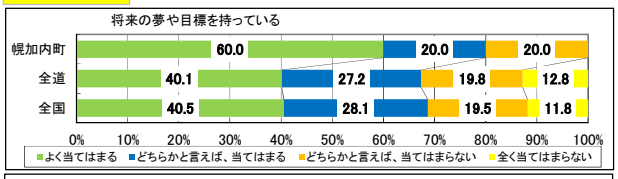


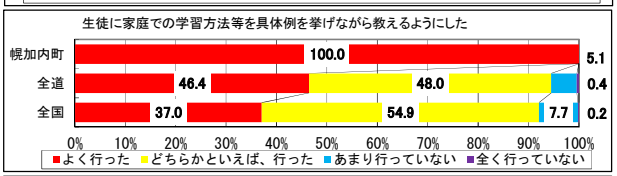


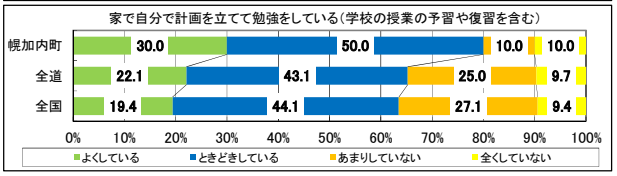




中学校







【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
町内の全ての学校において、授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。
町内の全ての学校において、言語活動について、学校全体として取り組むとともに、児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図り、家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、家で自分で計画を立てて学校の授業の予習や復習を含む勉強をしていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【幌加内町の学力向上策】

◎　学校・家庭・地域が連携した学力向上に向けた取組の推進
◎　ICT教育による児童生徒一人一人に合わせた学習の充実
◎　小規模校の特性を生かしたきめ細かな指導の充実